



JTRUST

2017年3月期 第3四半期

決算説明資料

2017年2月

Jトラスト株式会社

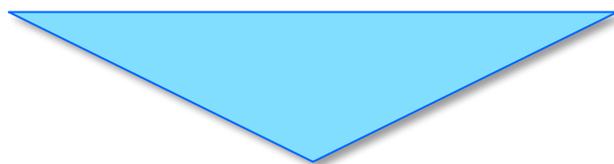
1. 決算のポイント
 2. 第3四半期決算概要
 3. セグメント別業績と取り組み
 4. その他
- APPENDIX**

免責事項

- 本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。
様々な要因により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- また、説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社または子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- 東南アジア金融事業のJ-GAAPは3ヶ月期ずれで連結決算に取り込んでおります。
3ヶ月期ずれ（第1四半期：1月～3月 第2四半期：4月～6月 第3四半期：7月～9月 第4四半期：10月～12月）
- 本資料に記載したIFRSの数値は、当社が参考値として策定した未監査の数値であることを
ご承知おき下さい。

1. 決算のポイント

- ▶ Jトラストアジアの投資事業が好調
77億円の営業利益を計上



連結営業利益は33億円と

第2四半期から73億円の改善

国内金融事業



- 安定した成長：営業利益35億円を計上
通期目標まであと7億円

韓国金融事業



- 負ののれんおよびTAアセットの未実現損失合計15億円の影響を受けるも1-3Qで
営業利益11億円を計上

東南アジア金融事業



- 貸倒引当金を計上した2Qと比較して
損益が改善

投資事業



- グループリース(GL)社の転換社債が寄与し、大きく利益貢献

2. 第3四半期決算概要

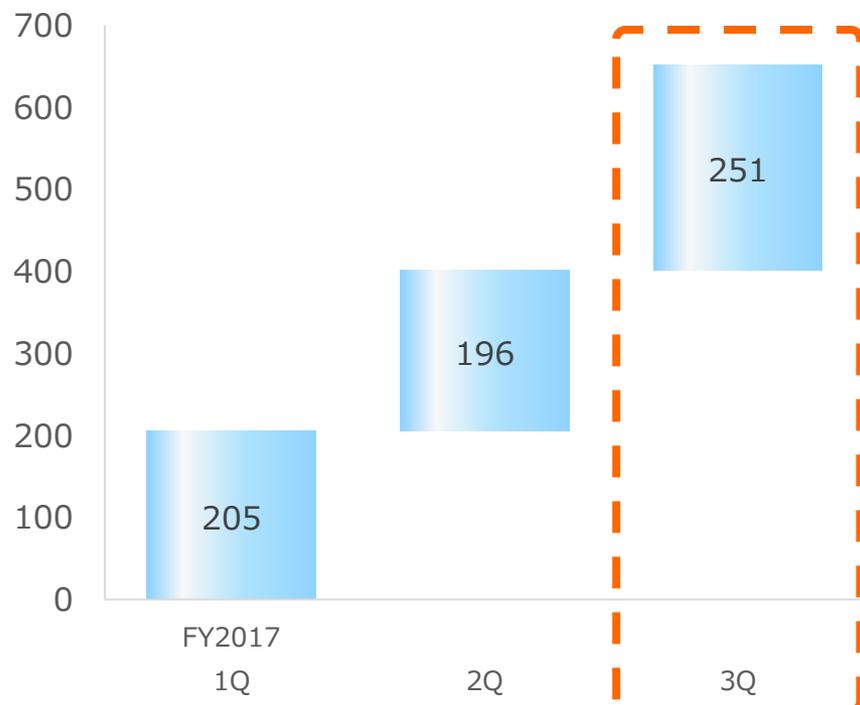
- 営業収益は251億円と四半期ベース過去最高を記録
- 営業利益は73億円と大きく改善

J-GAAP

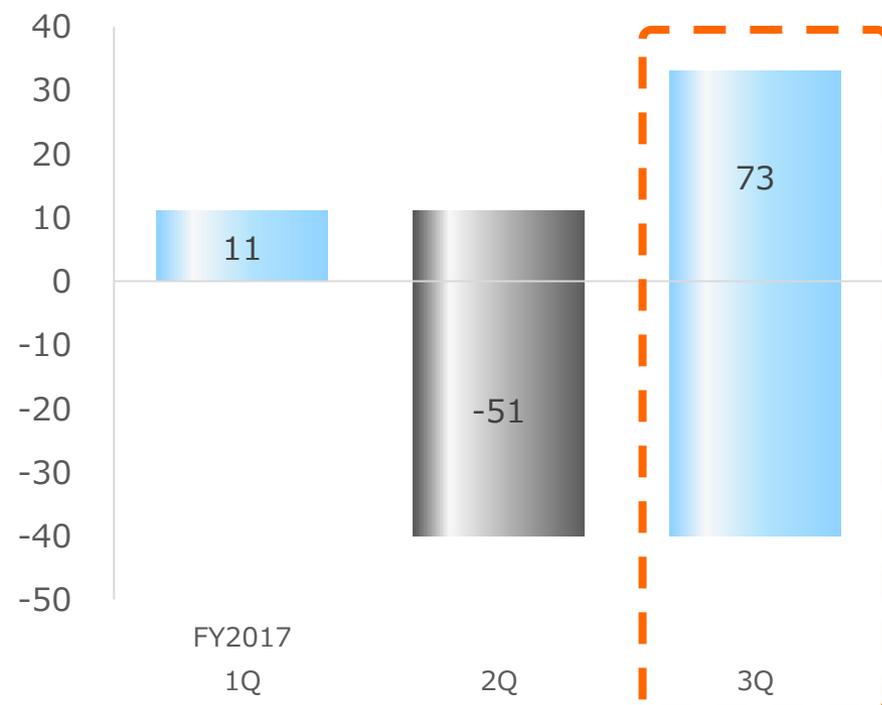
四半期毎 営業収益・営業利益の推移

単位：億円

営業収益



営業利益



- 営業収益は前年同期比 73億円増収の652億円
- 営業利益は前年同期比 54億円増益の33億円
- 経常利益は前年同期比 45億円増益の30億円

J-GAAP

前年同期比

	1Q-3Q FY2016	1Q-3Q FY2017	差異
営業収益	579億円	652億円	+73億円
営業利益	-21億円	33億円	+54億円
経常利益	-15億円	30億円	+45億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-10億円	3億円	+13億円
調整後EBITDA	13億円	64億円	+51億円

- 韓国金融事業、東南アジア金融事業、投資事業、共に前年同期比増収
- 国内金融事業は、安定した収益を計上

J-GAAP

営業収益（前年同期比）

	1Q-3Q FY2016	1Q-3Q FY2017	差異
国内金融事業	82億円	79億円	-3億円
韓国金融事業	199億円	211億円	+12億円
東南アジア金融事業	90億円	104億円	+14億円
投資事業	26億円	77億円	+51億円
非金融事業	167億円	161億円	-6億円
その他	12億円	17億円	+5億円
合計	579億円	652億円	+73億円

※非金融事業：不動産事業および総合エンターテインメント事業

※その他：商業施設建築事業、システム事業等

- 国内金融事業は持続的に成長中
- 韓国金融事業は前年同期比11億円の増益
- 投資事業は転換社債の評価益により大きく増益

J-GAAP

営業利益（前年同期比）

	1Q-3Q FY2016	1Q-3Q FY2017	差異
国内金融事業	28億円	35億円	+7億円
韓国金融事業	0億円	11億円	+11億円
東南アジア金融事業	-57億円	-65億円	-8億円
投資事業	25億円	77億円	+52億円
非金融事業	2億円	0億円	-2億円
その他	-19億円	-25億円	-6億円
合計	-21億円	33億円	+54億円

※非金融事業：不動産事業および総合エンターテインメント事業

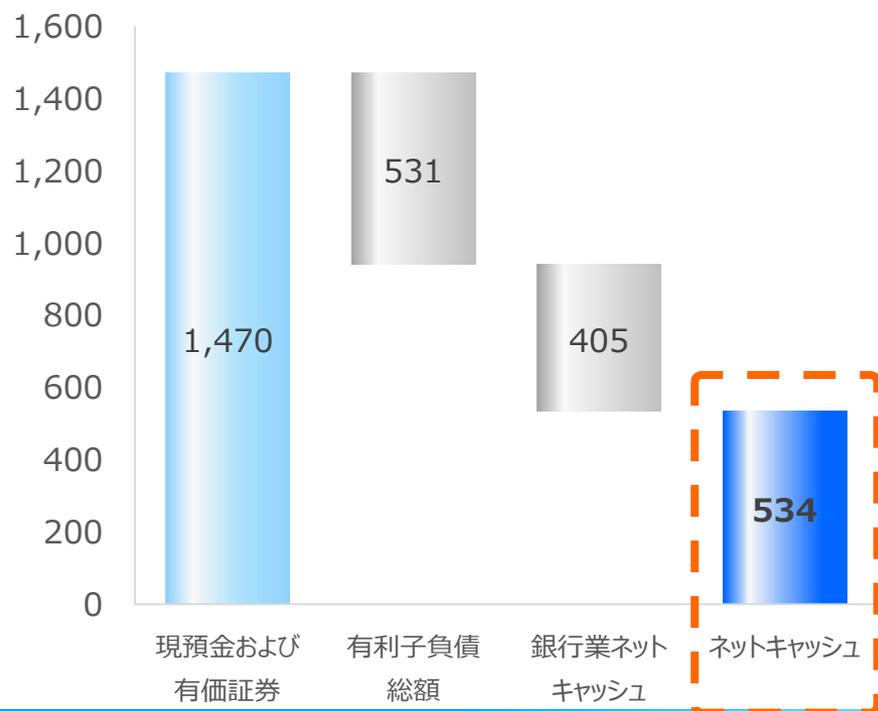
※その他：商業施設建築事業、システム事業等

- ネットキャッシュは2016年3月末から144億円増加し678億円となる
- キャッシュフローを重視した経営により、経営基盤はより強固となる

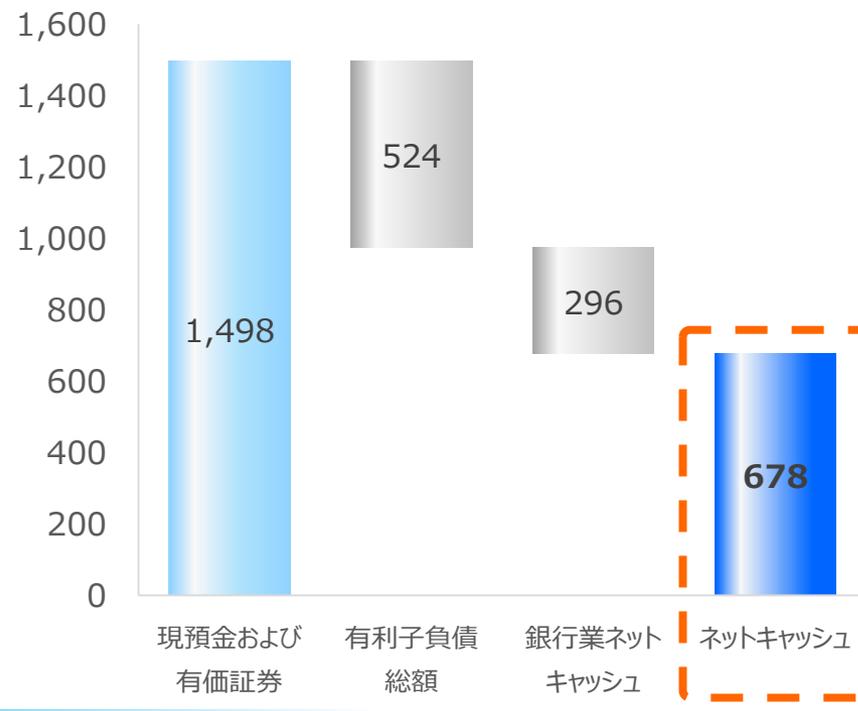
ネットキャッシュの推移

単位：億円

2016年3月末



2016年12月末

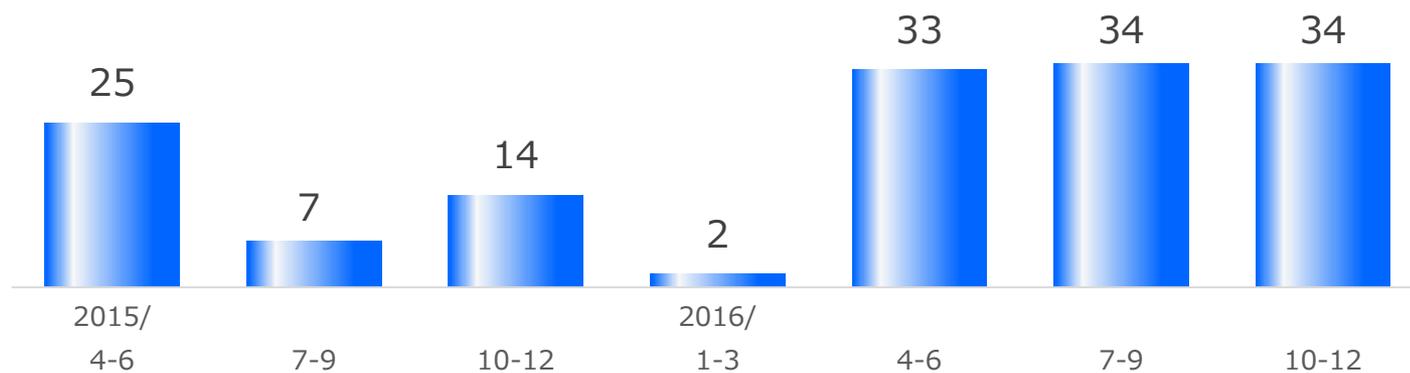


※有利子負債には商業手形割引を含む

➤ 評価性の引当等を調整したベース利益は安定した黒字を確保

単位：億円

	2015/4-6	7-9	10-12	2016/1-3	4-6	7-9	10-12
営業損益 (A)	-19	-3	2	-20	11	-51	73
評価性引当等 (B)	44	18	30	23	34	78	32
投資事業損益 (C)	0	8	18	1	13	-7	71
ベース利益 (A+B-C)	25	7	14	2	33	34	34



3. セグメント別業績

3-1. 国内金融事業

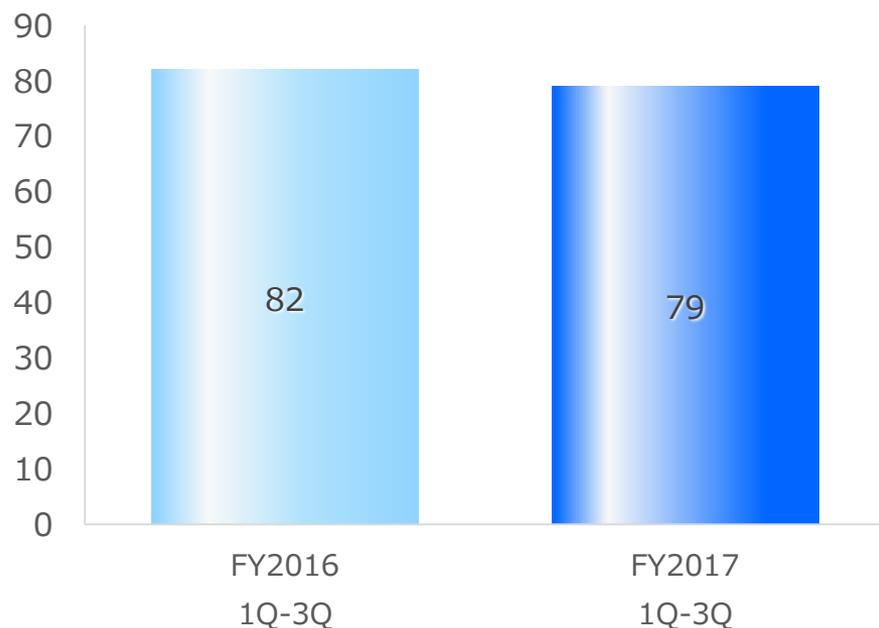
- 営業収益・営業利益とも堅調に推移
- 保証事業、債権回収事業ともに順調 営業利益通期計画42億円以上の着地を目指す

J-GAAP

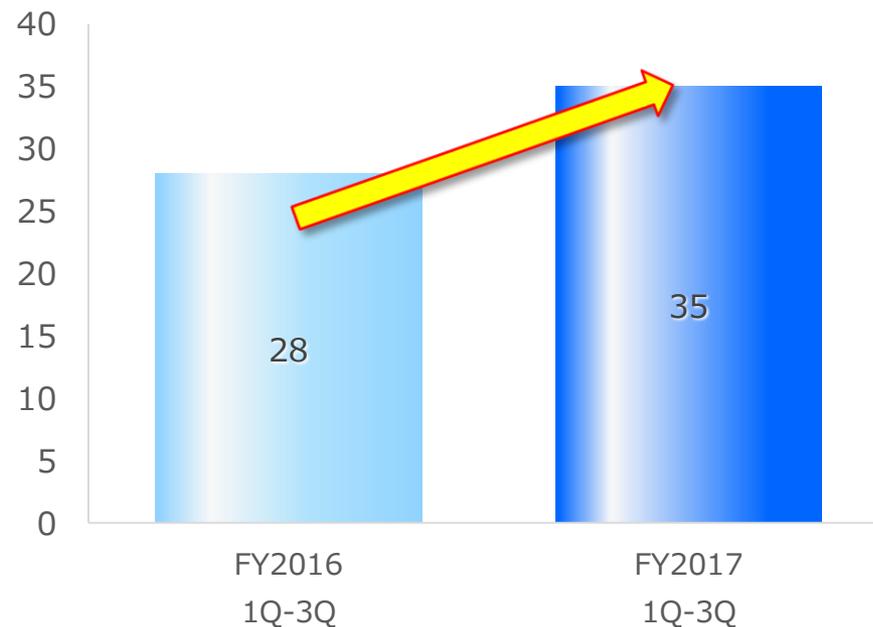
国内金融事業

単位：億円

営業収益

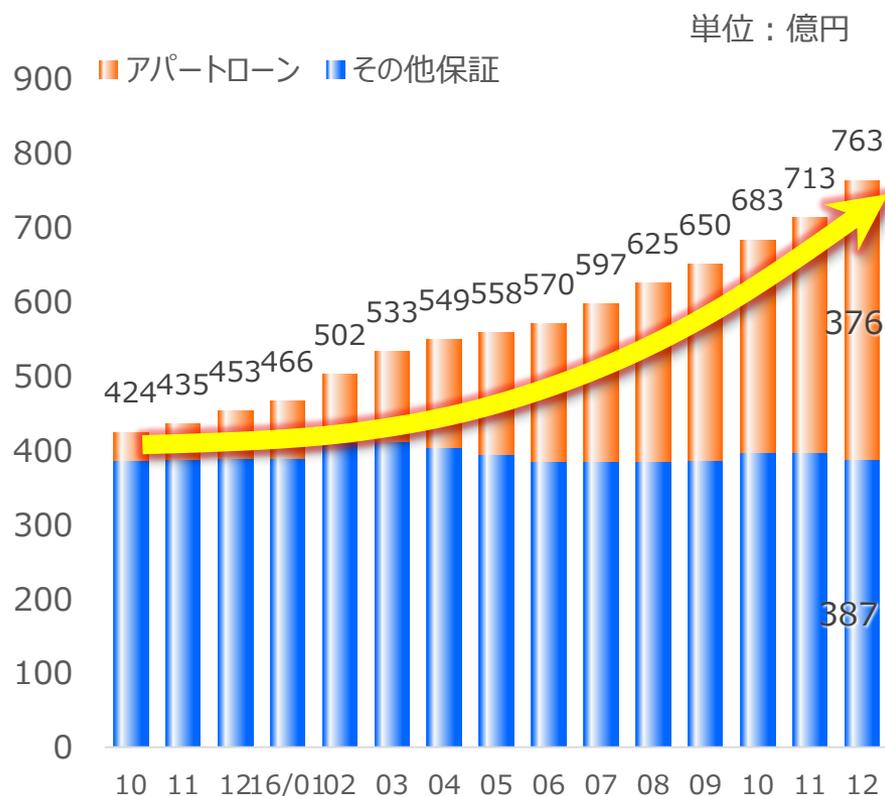


営業利益

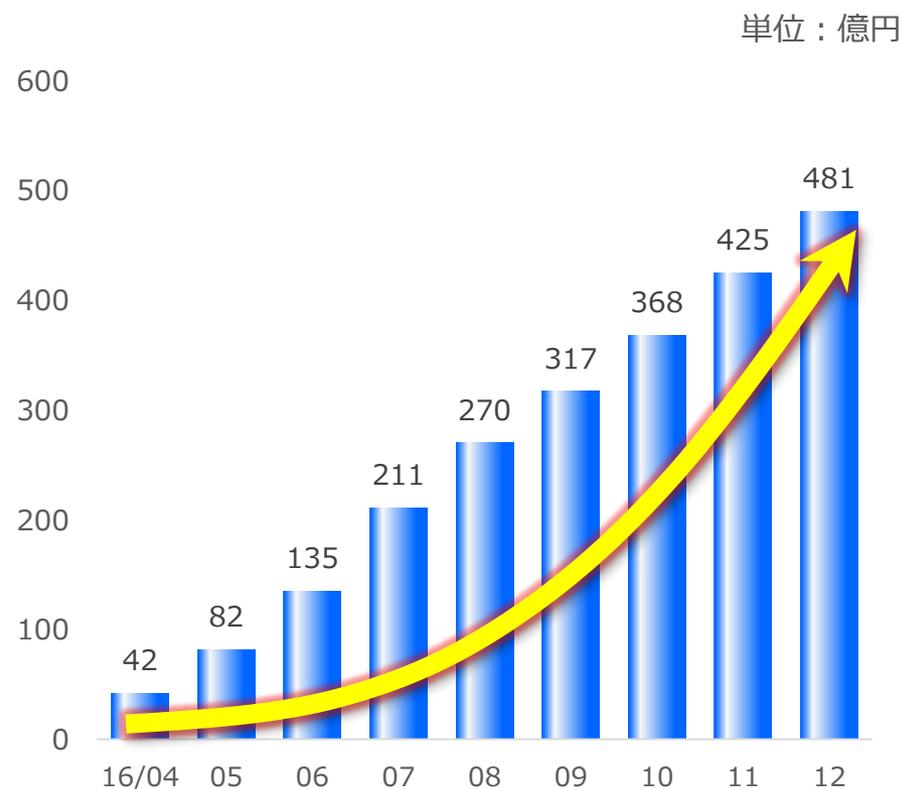


- リスクを勘案し、慎重な与信を行ったうえでもアパートローン保証残高は順調な積み上がりを実現
- 厳選した物件をターゲットにしており、入居率は97%超

保証残高の推移



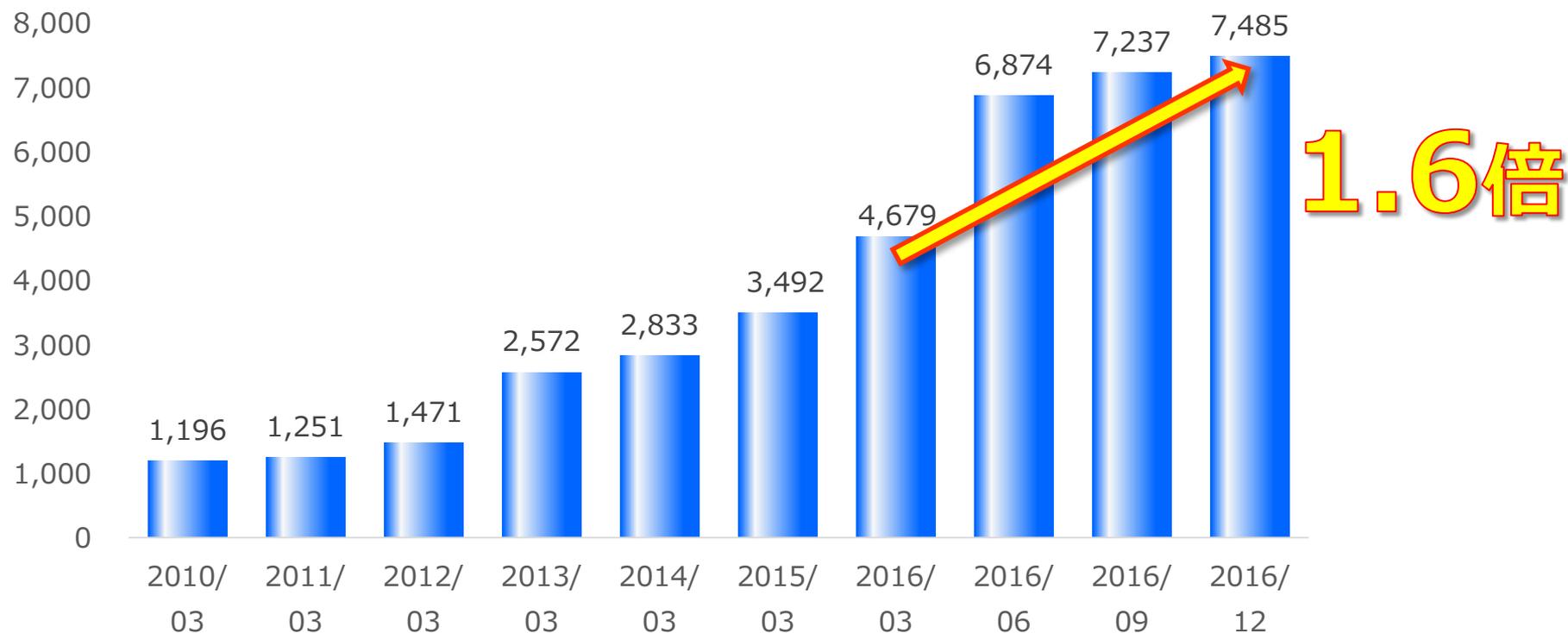
アパートローン本承認累計金額



- NPL債権の買収が引き続き奏功し 請求債権残高は増加
- 2016年3月末の4,679億円から7,485億円と1.6倍に

請求債権残高の推移

単位：億円



3 - 2. 非金融事業

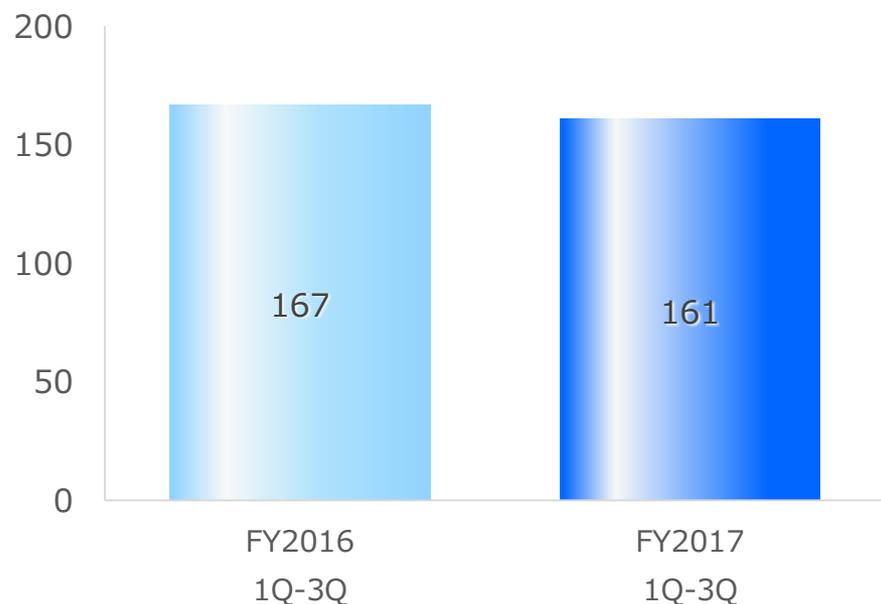
- ▶ アドアーズグループの連結営業利益は6億円
- ▶ 1月からハイライツ・エンタテインメントが新遊技機の発売を開始、期末に向け収益貢献を見込む

J-GAAP

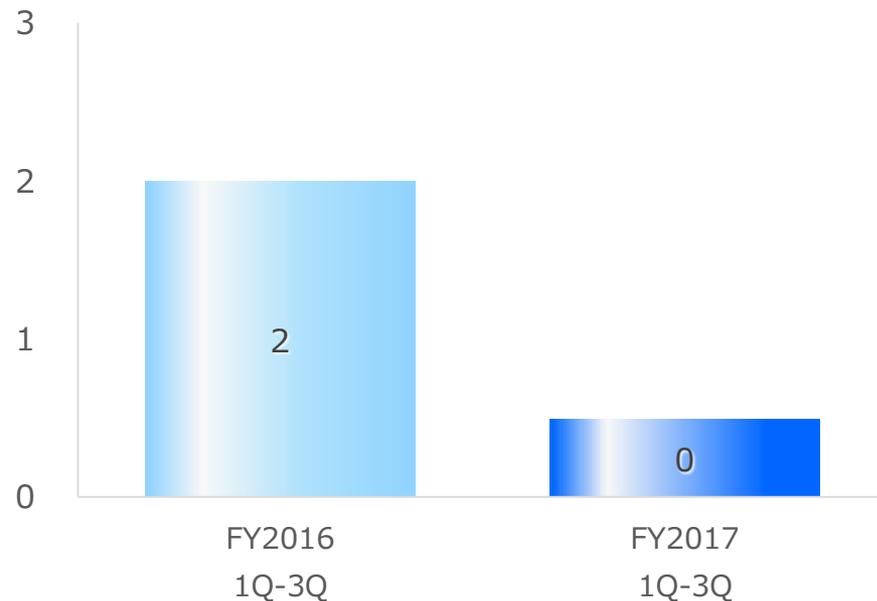
非金融事業

単位：億円

営業収益



営業利益



3 - 3. 東南アジア金融事業

➤ J-GAAPにおける東南アジア金融事業の連結取り込みは3ヶ月の期ずれ

■ 東南アジア金融事業 業績の取込み期間

FY2017	1Q	2Q	3Q	4Q
J-GAAP	2016/1~3	2016/4~6	2016/7~9	2016/10~12
営業収益	35億円	33億円	36億円	—
営業利益	-6億円	-54億円	-5億円	—

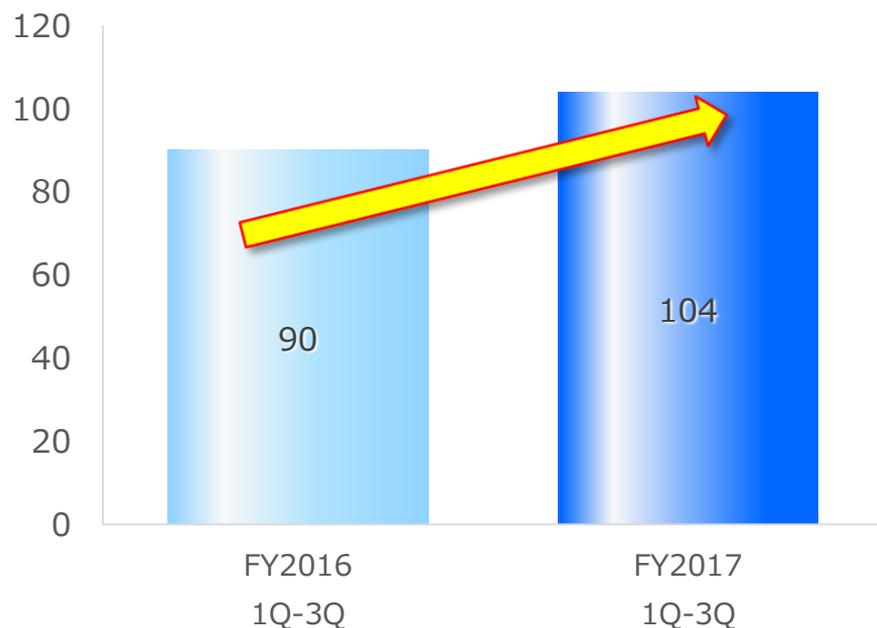
- 営業収益は増収
- 営業利益は前年同期比8億円の減益となるも、2Qで計上した貸倒引当金の46億円を考慮すると改善基調

J-GAAP

東南アジア金融事業

単位：億円

営業収益



営業利益

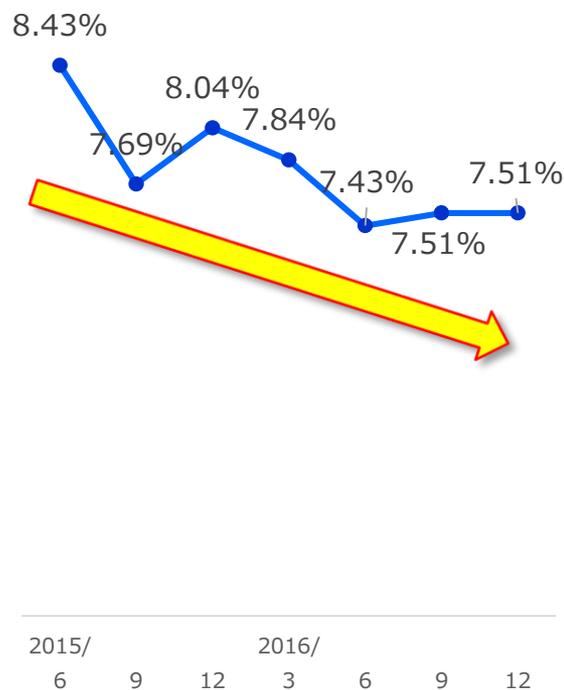


- ▶ コマーシャルローン（ローン規模：約1～5億円）の拡大による営業資産残高の積み上げにより、純金利収入は着実に増加

平均貸出金利

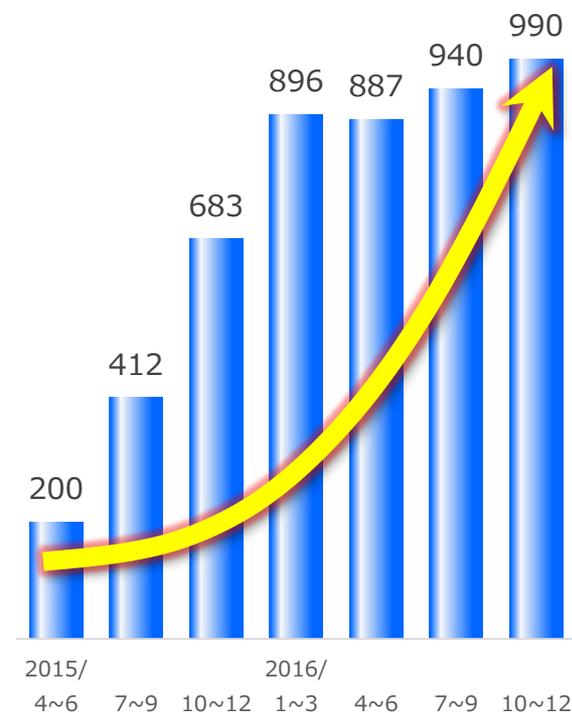


平均預金金利



純金利収入

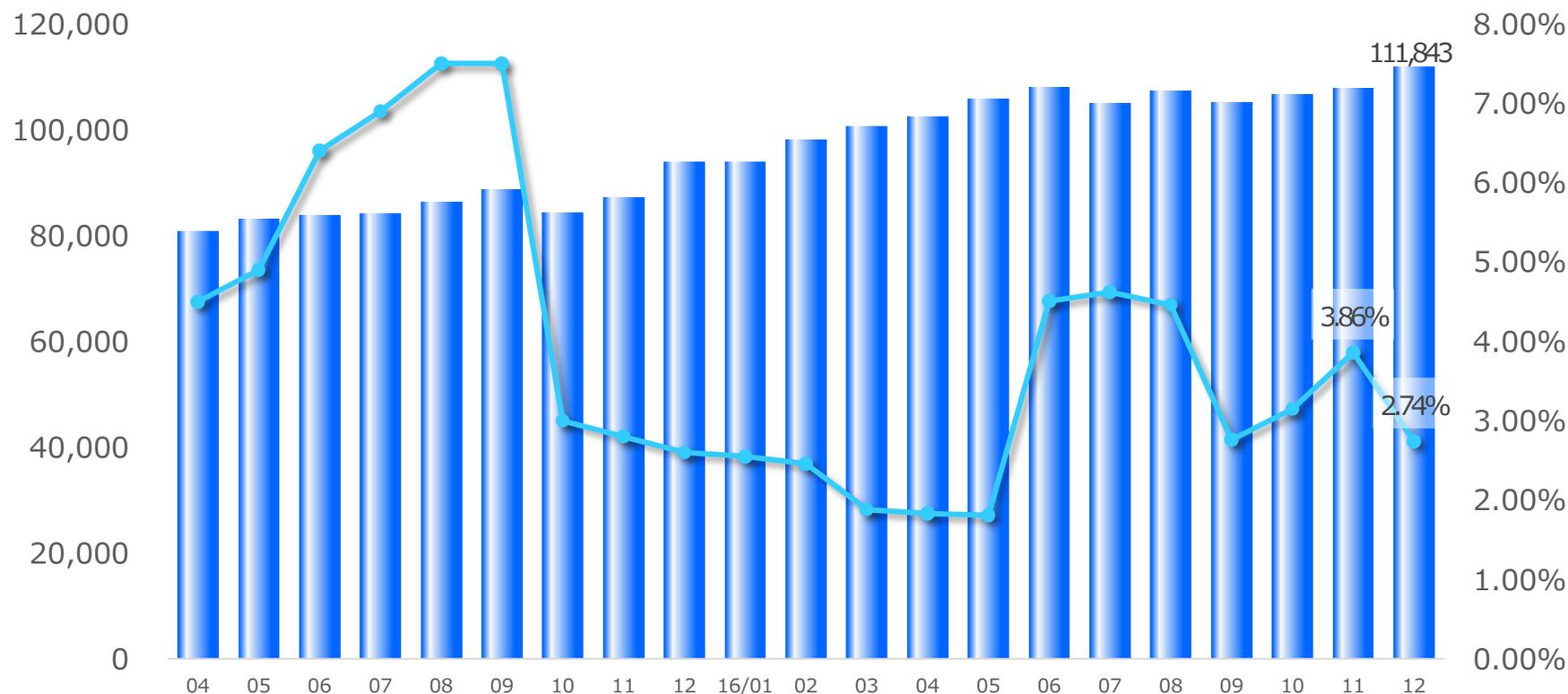
単位：億ルピア



- コーポレートローン、マルチファイナンス向けローンを選別し減少させているが、それ以上に商業ローンを積み上げることで、質の向上と残高増を実現
- 過去実行した大口債権の信用区分低下により不良債権比率が一時的に高くなるも、12月末には圧縮（11月末3.86%→12月末2.74%）

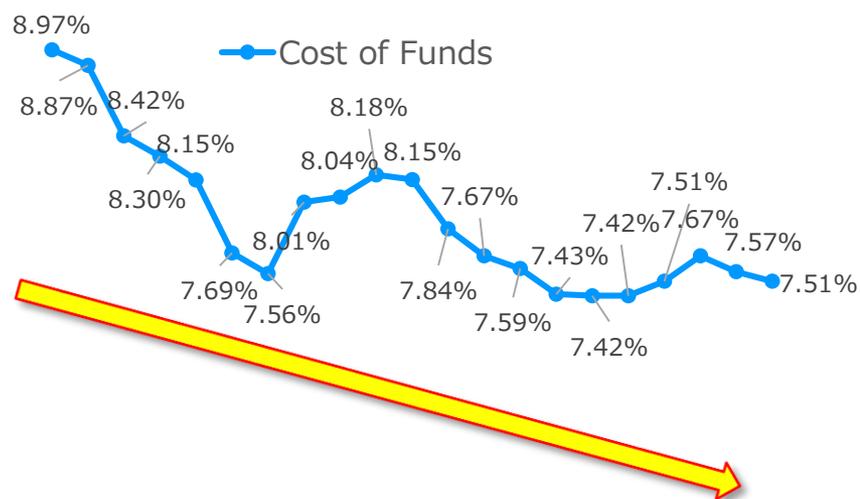
貸出資産残高および不良債権比率の推移

単位：億ルピア

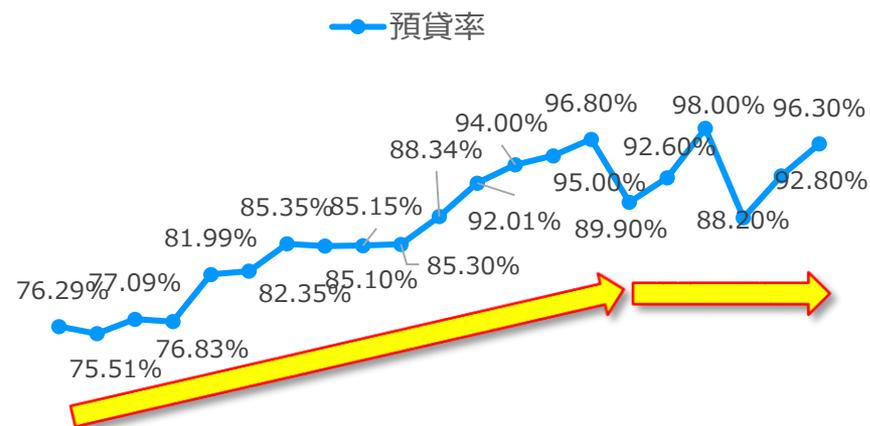


- COF(資金調達コスト/Cost of Funds)は低下
- 貸出残高と預金残高のコントロールによって適正な預貸率を維持
- 地銀との提携による日系企業へのローン提供、預金獲得も引き続き拡大予定

COF(Cost of Funds)および預貸率の推移



15/ 16/
04 05 06 07 08 09 10 11 12 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12

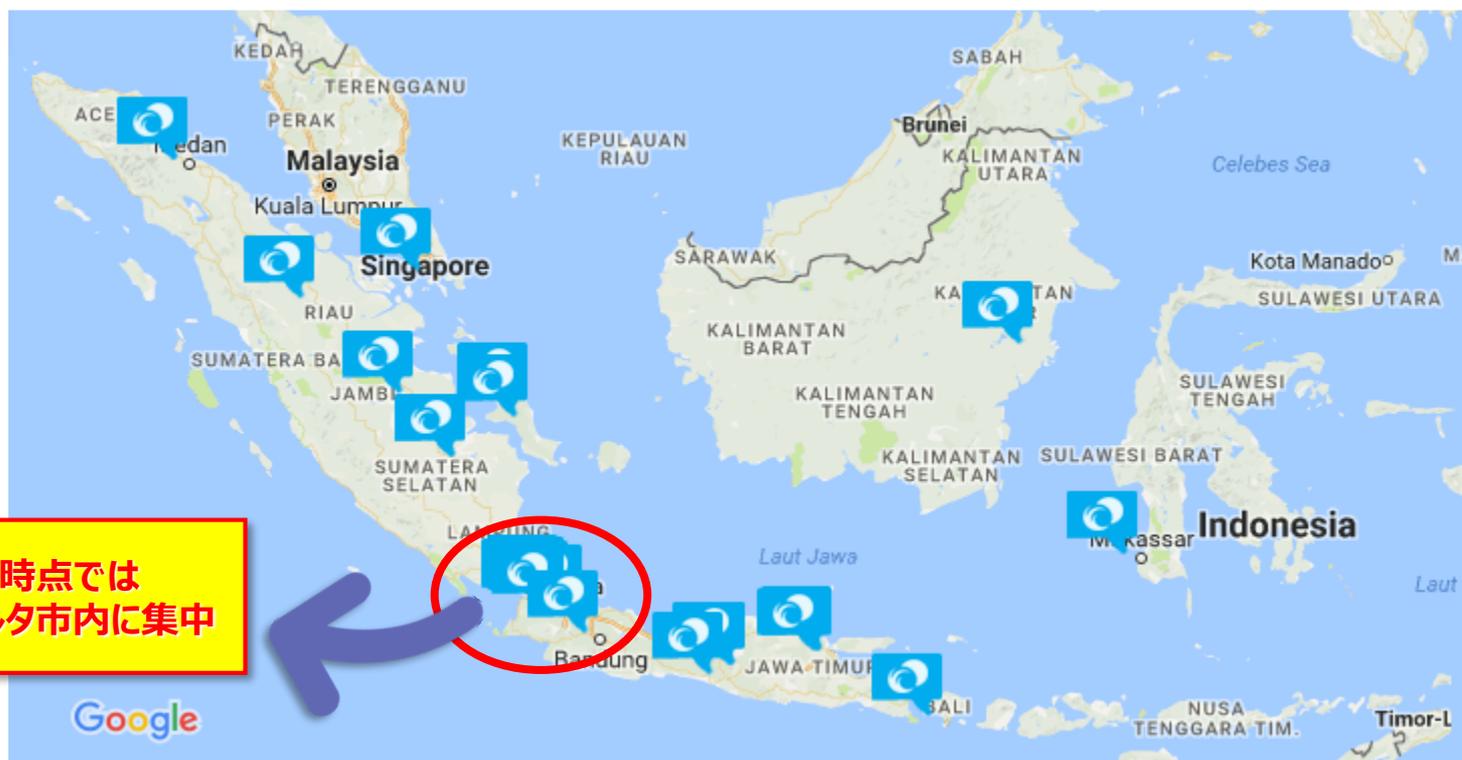


15/ 16/
04 05 06 07 08 09 10 11 12 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12

- 支店の重複が多いエリアにおいて18拠点を廃止し、59店舗→41店舗へ削減済（廃止対象の半数以上はジャカルタ市内）
- 9月末時点約1,300名の正社員を大規模なリストラにより700名まで削減予定（2017/3末）⇒1月末時点の正社員数は約850名

Jトラスト銀行 拠点マップ

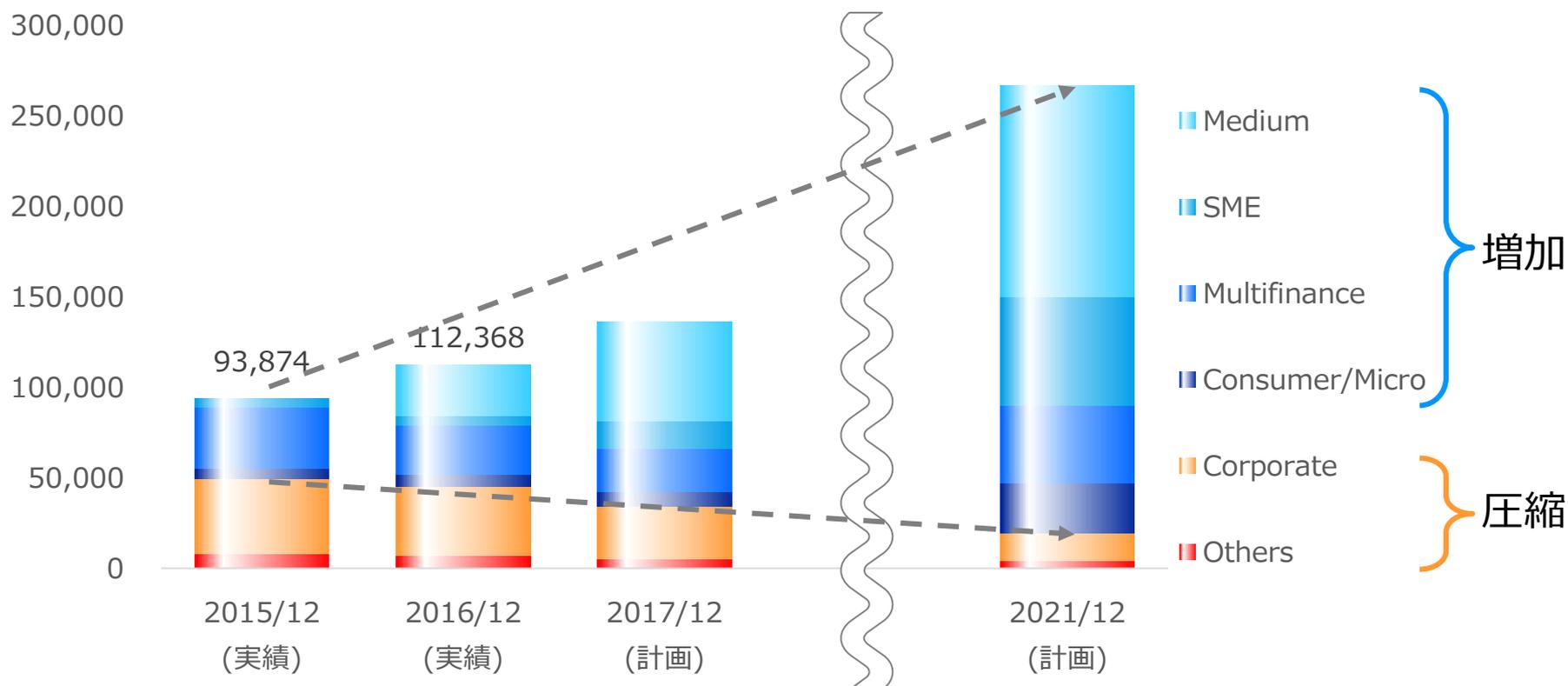
2016年12月末現在



- 残高10億円以上の大口融資（コーポレートローン）を圧縮
- 1億円から5億円の小口融資（コマーシャルローン）を引き続き推進し、さらに2017年は新チームを組成しSMEローン（1億円以下）の積み上げを狙う

今後の債権ポートフォリオのイメージ

単位：億ルピア



- 2017年は地方主要都市にて新店舗を13店舗開設予定
(うち3店舗は旗艦店として新しいデザインを採用)
- 日系大手広告代理店と大規模なマスマーケティングを開始し、個人顧客の取り込みによりCOF低下を狙う
- 日系企業向けのブロックM パパイヤキャッシュオフィス(1/10オープン済)

ブロックMに開店したキャッシュオフィス（左）と旗艦店イメージ（右）



- KIIC（カラワン工業団地）に日系企業向けの新店舗をオープン予定
- カフェと提携する等、他のローカル銀行にはない新しい取り組みを実施

カフェテリアが併設された銀行店舗のイメージ写真



- 1兆ルピアの資本金注入（正式承認は3月予定）により自己資本比率は15.2%まで上昇、多額の引当金をカバーし、ローン拡大に備える
- 2016年末の臨時株主総会にて現地金融当局承認のもと日本人の頭取就任および役員構成の補強を実施し、旧体制から脱却を図る

Jトラスト銀行における役員就任（左）および直近の自己資本比率（右）

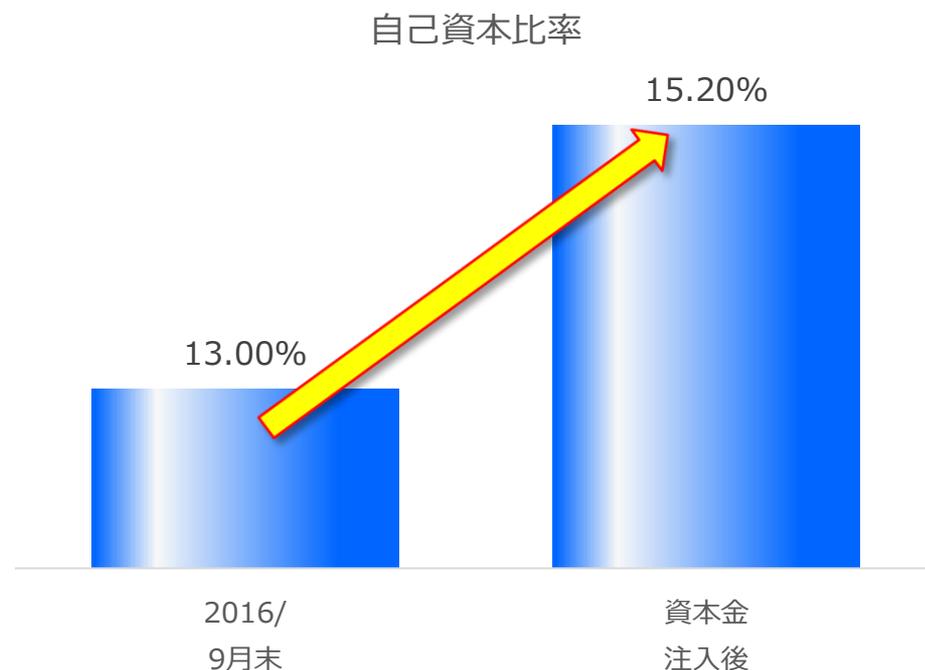


役員構成（5名から7名へ）

～2016年12月
Ahmad Fajar
安藤律男
田中庸介
Felix Istyono Hartadi Tiono
Helmi A. Hidayat



2016年12月～
安藤律男
田中庸介
Felix Istyono Hartadi
Helmi A. Hidayat
Budi T Halim
Haryanto B Purnomo
Rio Lanasier



- ▶ Jトラスト銀行は1兆ルピア以上5兆ルピア以下の自己資本を有する銀行部門（BUKU II）の金融上場会社におけるベストGCG（グッド・コーポレート・ガバナンス）賞を受賞

Best GCG Award

Best GCG Awardとは？

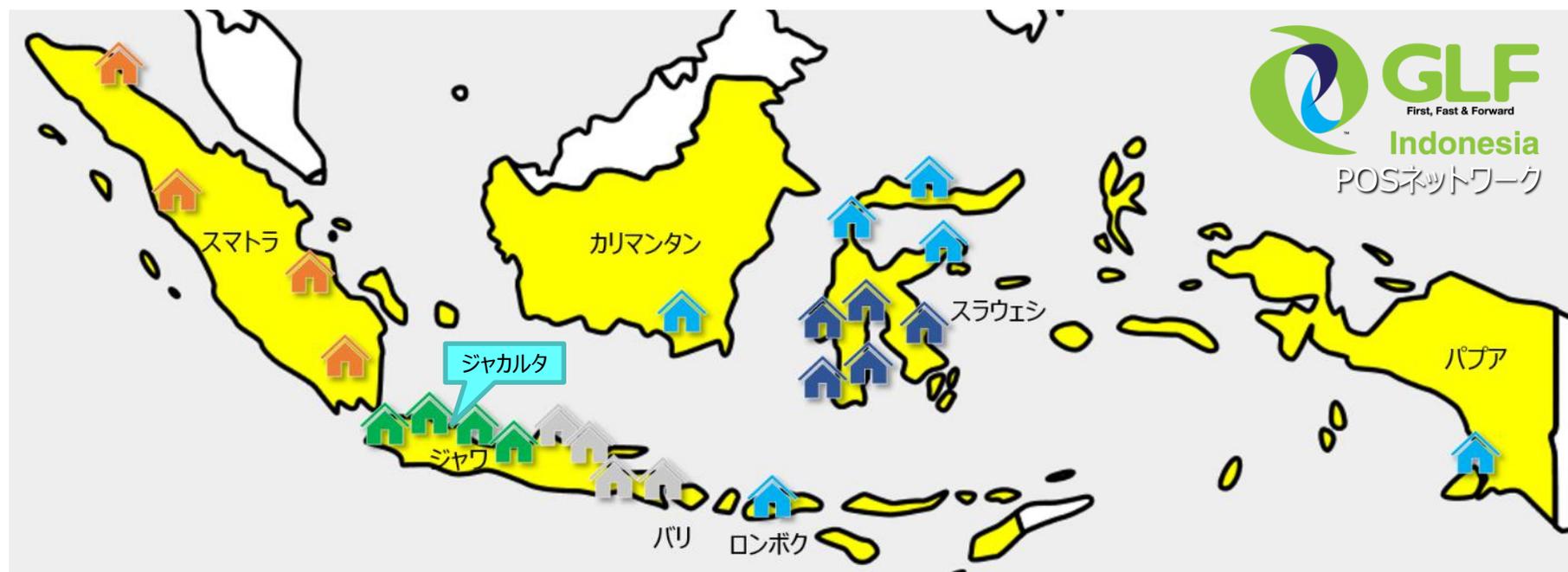
インドネシア金融サービス庁（OJK）協賛で毎年行われるイベントで、情報開示に優れた企業に贈られる賞
インドネシア経済誌の出版社によって評価/表彰



- スラウェシ島やロンボク島など、銀行拠点が十分に整備されていないエリアでPOSを開設
- 他国で蓄積した与信コントロールノウハウを活用し、地方の農家に対し農機具リースを提供中
- インドネシアにおけるPOSは1月末時点で23拠点

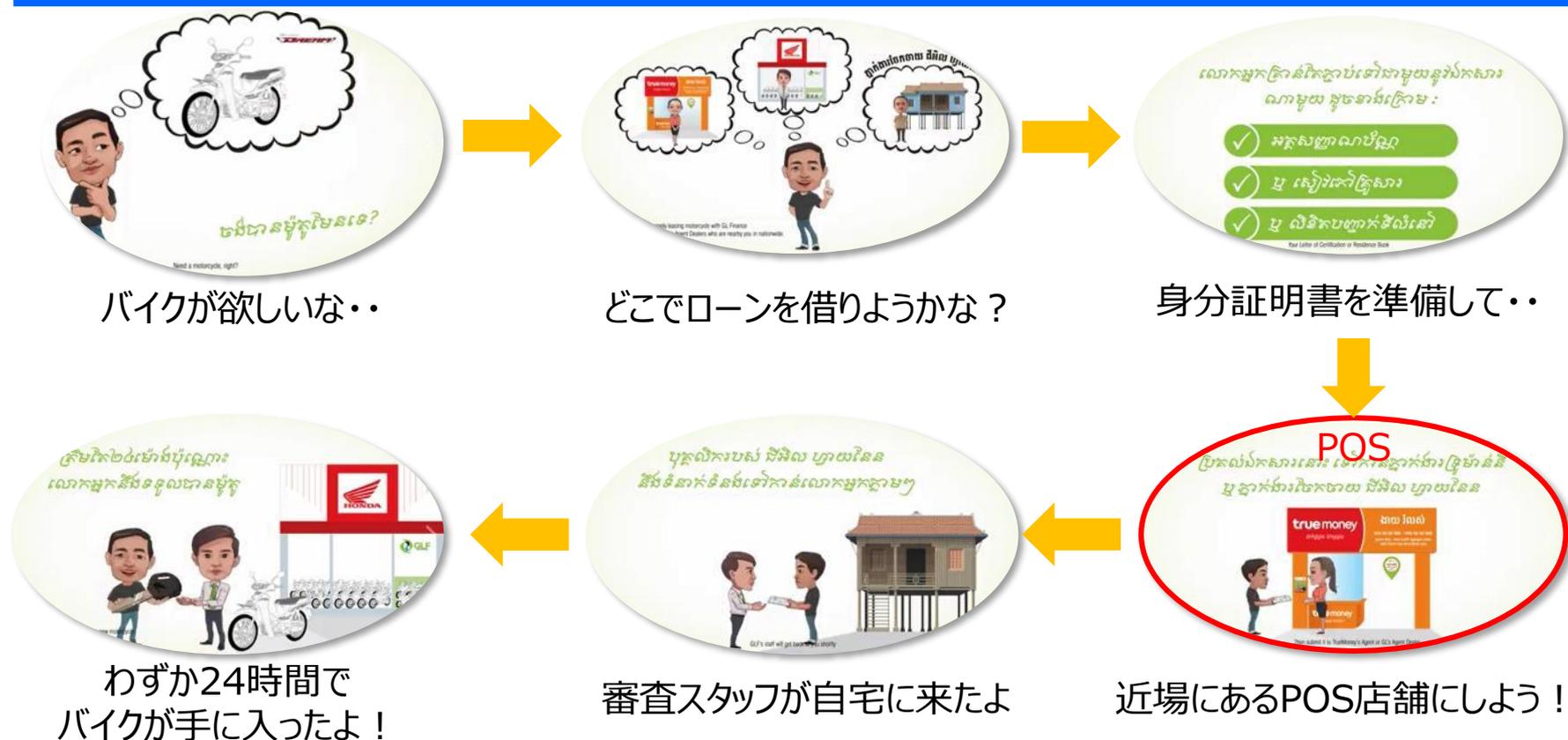
GLFIのPOS（簡易営業拠点）マップ

2017年1月末現在



- ▶ True Money (インドネシアに25,000拠点) ほか、電子マネー会社のPOSとの提携も視野に入れ、貸出残高の拡大を図る

POSを拠点とした融資～実行までの流れ (GLFカンボジアでの例)



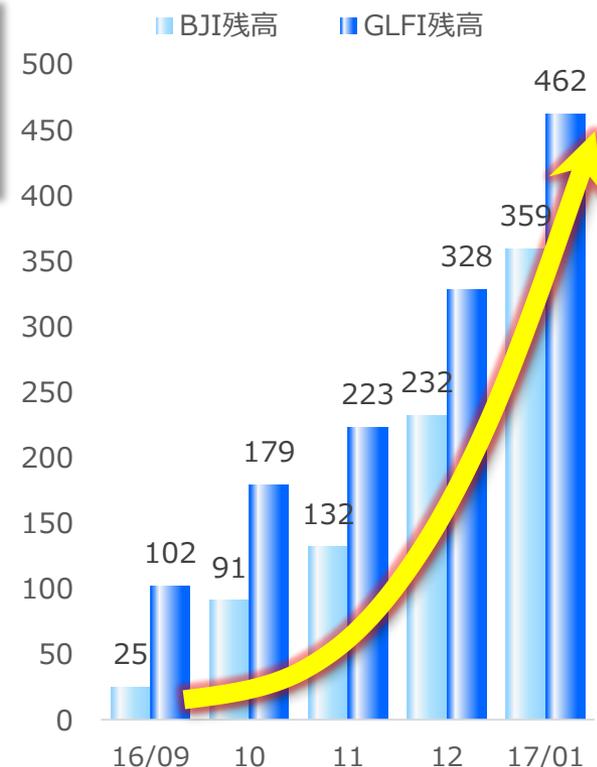
- GLFI貸出残高は、1月末時点462億ルピアと着実に増加中
- 新しい取り組みとして、スラウェシ島南部Tanete地区のPOSを中心にグループローン※を拡大予定

スラウェシにあるPOSと町村 (左) および 貸出残高 (右)

単位：億ルピア



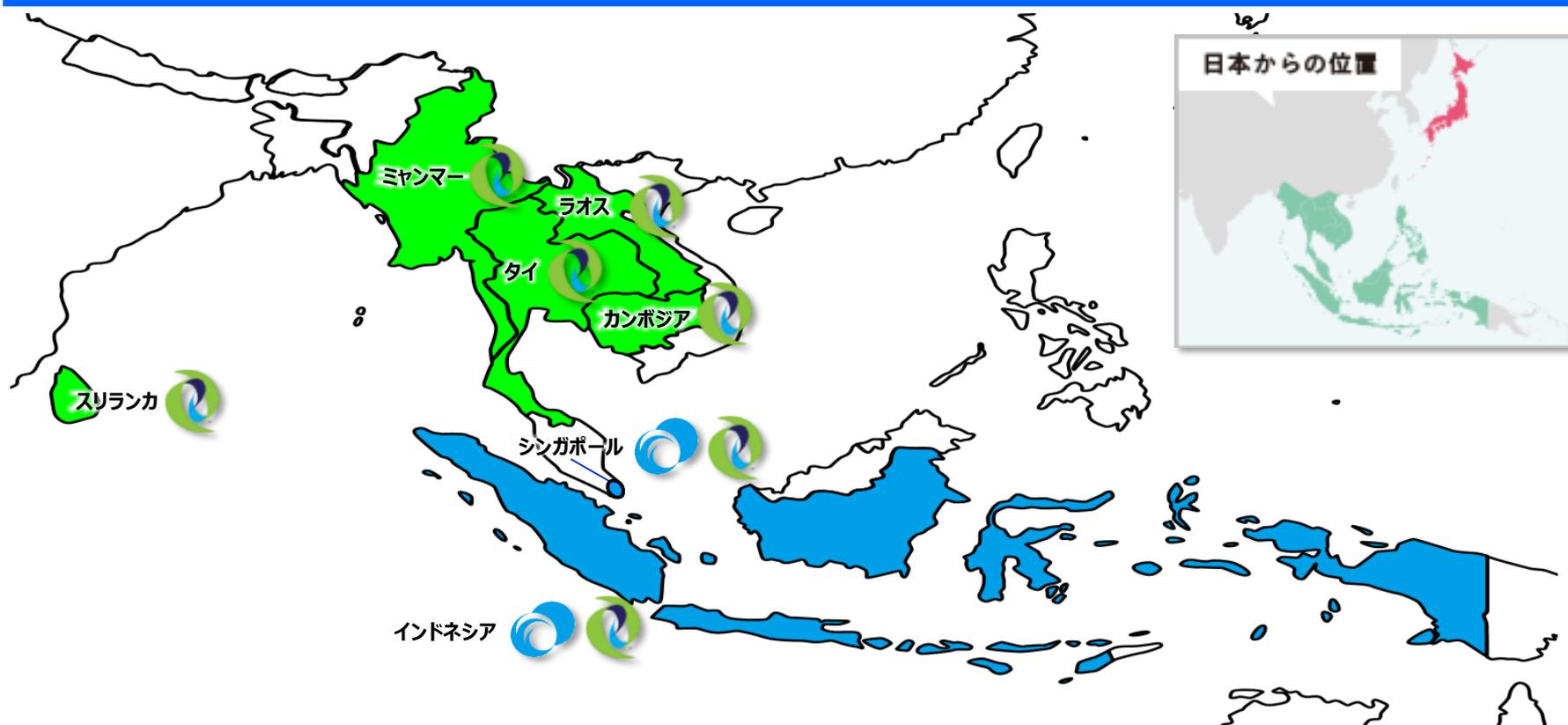
スマホを活用した申込～審査



※グループローンとは、2万円～5万円程度の小規模ローンをグループに融資する仕組み
参考レート：1ルピア=0.0087円

- GL社はタイ、ミャンマーなど7ヶ国で展開し、今後はアフリカや東欧にも進出を企図
- GL社と協業して当該地域のリテールファイナンスに注力

GL社の進出国（緑）とJトラストの進出国（青）



シンガポールおよびインドネシアはGL社、Jトラスト共に進出

3 - 4. 投資事業

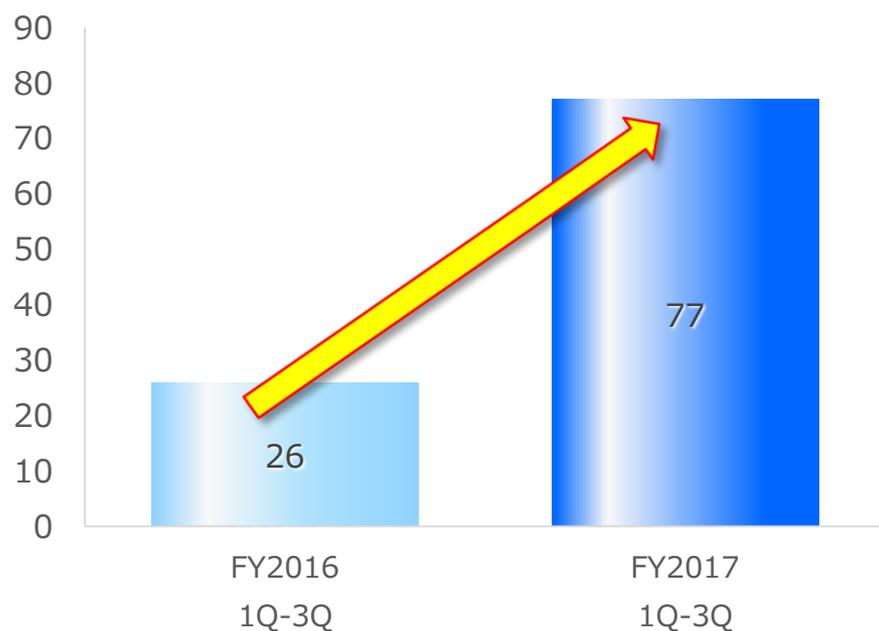
- 営業収益・営業利益は大幅に増収増益
- GL社の株価が堅調に推移し、転換社債の時価評価益が大きく貢献

J-GAAP

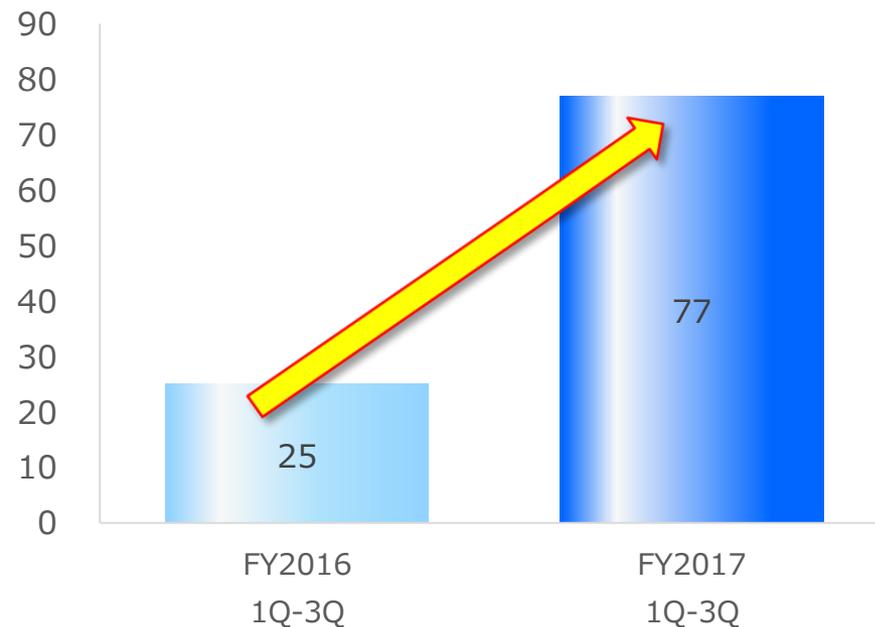
投資事業

単位：億円

営業収益



営業利益



- GL社転換社債に組み込まれているデリバティブ部分は四半期ごとに公正価値評価をして損益に計上することが必要 9月末時点と比較し60億円の利益を計上
- 1月末時点のGL社株価は59.25バーツ

デリバティブ会計とは？

GL社転換社債の一部について、引受時の株価である41.8バーツを起点に、決算時点の株価に基づいた評価額を損益計上する仕組み



評価損益シミュレーション

	GL社株価	評価損益
	80.0バーツ	+109億円
	75.0バーツ	+94億円
	70.0バーツ	+80億円
12月30日	57.25バーツ	+46億円
引受時	41.8バーツ	0億円
9月30日	35.0バーツ	-14億円
	30.0バーツ	-26億円

↑ (Upward arrow from 70.0 to 80.0)

↓ (Downward arrow from 30.0 to 70.0)

+60億円 (Callout box pointing to the difference between 12月30日 and 9月30日)

- DBS VICKERS証券のレポートによると、GL社の目標株価：12ヶ月88バーツ (97%upside)
- 株価88バーツの場合、デリバティブ評価益は推計134億円 (レート：1バーツ=3.24円)

2016年11月10日時点

Thailand Company Guide
Group Lease
Version 8 | Bloomberg: GL TB | Reuters: GL.BK
DBS Group Research - Equity

BUY
Last Traded Price (10 Nov 2016): Bt44.75 (SET : 1,514.26)
Price Target 12-mth: Bt88.00 (97% upside) (Prev Bt50.00)

Potential Catalyst: Overseas operating performance, new overseas investments

When they differ: Our valuation method

Analyst
Thaninee SATIRAREUNGCHAI, CFA +662 657 7837
thaninees@th.dbsvickers.com

What's New
Expect new high profit in 3Q16F; more excitement in 4Q16F; E profit least double (16F's)

BUY
Last Traded Price (10 Nov 2016): Bt44.75 (SET : 1,514.26)
Price Target 12-mth: Bt88.00 (97% upside) (Prev Bt50.00)

Potential Catalyst: Overseas operating performance, new overseas investments

The key investments
At present, it has presence in five countries outside Thailand. GL now has investments in Thailand and five other countries, including Cambodia, Laos, Indonesia, Myanmar, and Sri Lanka. The company is now operating three key businesses, i.e. hire purchase, asset-backed loans, and microfinance. Its unique Digital Finance Platform, which was developed and first implemented in Cambodia, is very successful and has now been used in, and will also be applied to GL's operations in other countries.

Leveraging large customer supplier network. Other than IP

- GL社の現在の進出国は7ヶ国
- 2017年には世界20ヶ国での展開を目指す

GL社リリース（左） および要約（右）

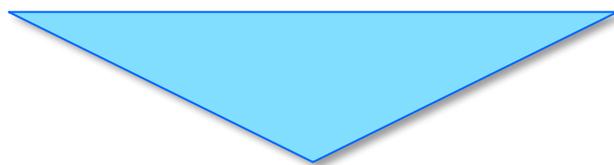


GL社 2017年1月4日付けリリース

- （前略）～GL独自のビジネスモデルであるDigital Finance事業において、これまでのタイ、シンガポール、カンボジア、ラオス、ミャンマー、インドネシア、スリランカの7ヶ国に加え、アフリカと東ヨーロッパの13ヶ国に消費者ファイナンスとITを融合したGL独自のビジネスモデルを拡大させ、世界20ヶ国での事業展開を図る。
- （中略）カンボジアやインドネシアなどでの既存事業の成長に新たなM&A案件を加え、更に大規模な事業拡大に繋げる～（後略）

➤ Jトラストアジアが保有するGL社の株式は6.43%

- 転換株式数：98.1百万株
- 転換時簿価：53億49百万円（2015年12月30日 1株=18バーツ）
- 現在の簿価：182億80百万円（2016年12月30日 1株=57.25バーツ）



単純差額：約130億円→「**含み益**」

参考：GL社転換社債引き受けについて

1. 2015年5月 30,000,000米ドル 利率：5% 引き受け後 2015年12月30日株式転換
2. 2016年8月 130,000,000米ドル 利率：5% 引き受け済み
3. 2017年2月 50,000,000米ドル 利率：5% 引き受け予定

3 - 5. 韓国金融事業

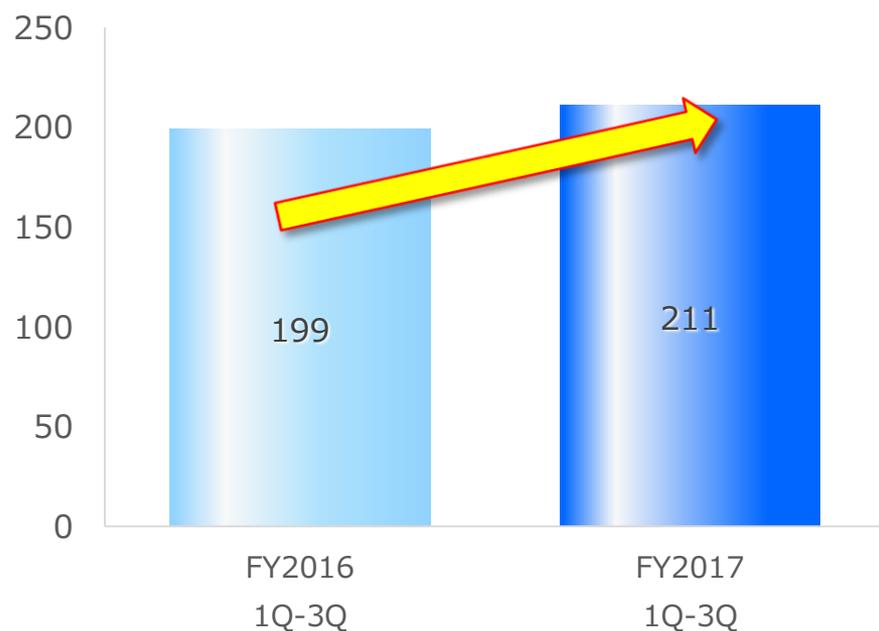
- ▶ 営業収益は残高の伸長と共に増収
- ▶ 営業利益は前年同期比11億円の増益

J-GAAP

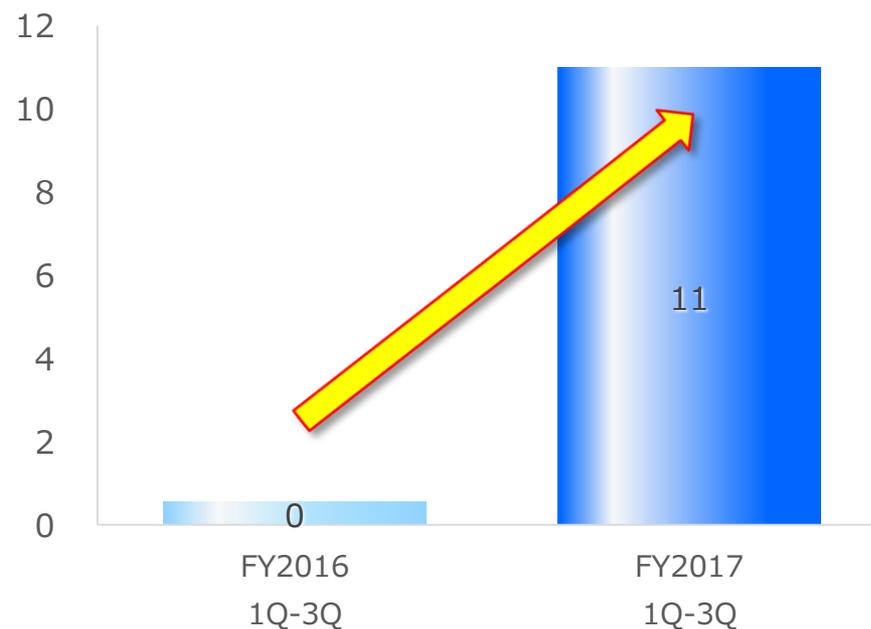
韓国金融事業

単位：億円

営業収益



営業利益



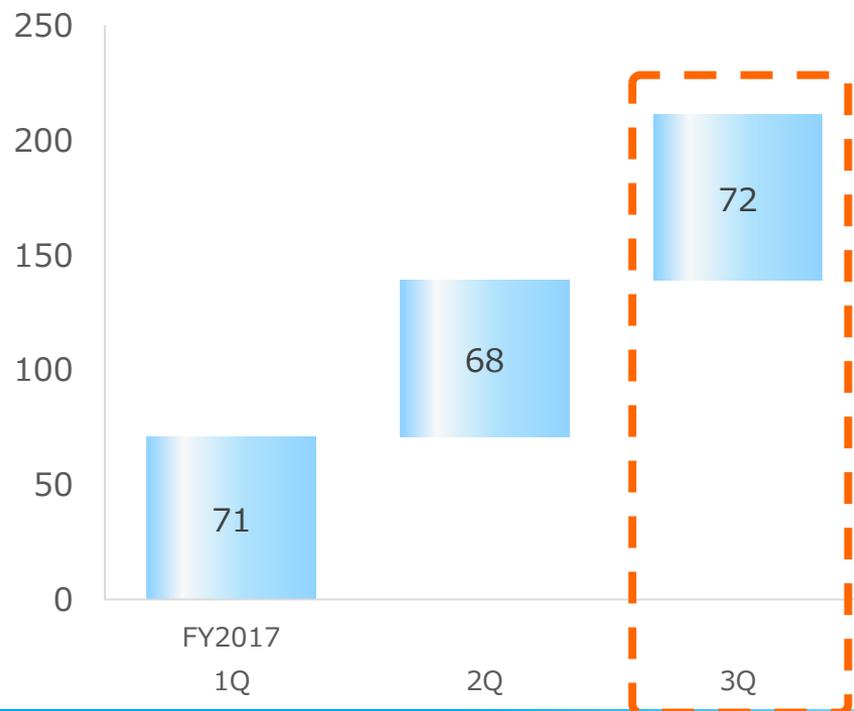
- 四半期毎の営業収益は堅調に推移
- 季節要因によって、貸倒引当金の積み増し等が発生
- 韓国市場の影響もあり、3Qの営業利益は3億円となる

J-GAAP

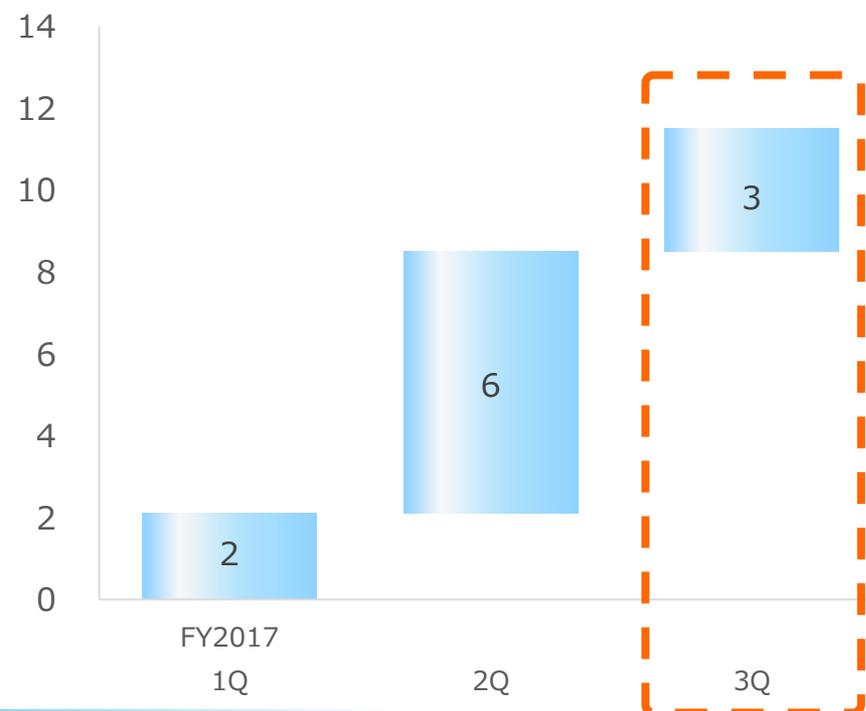
四半期毎 営業収益・営業利益の推移

単位：億円

営業収益



営業利益

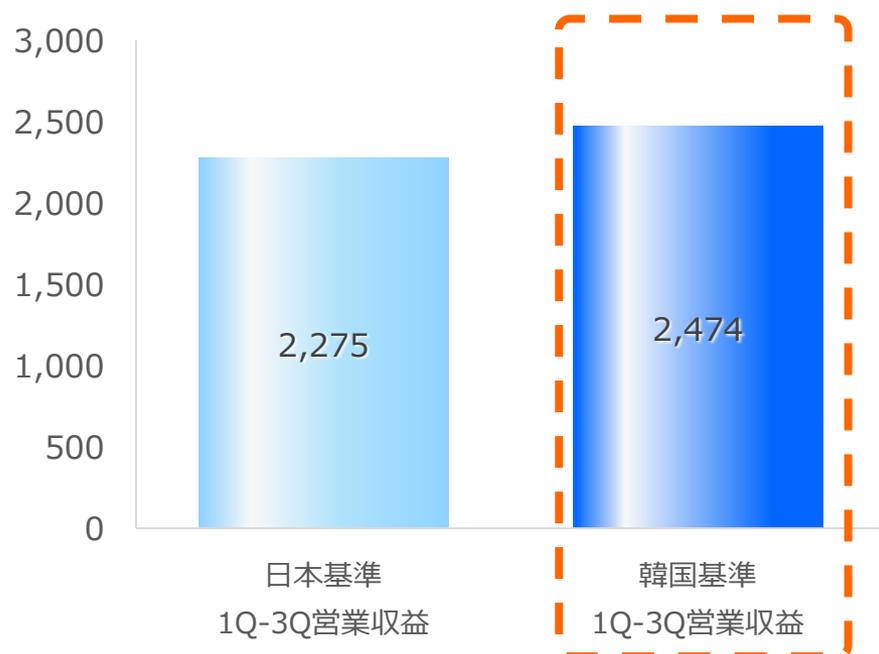


- ▶ 実力値をあらわす韓国現地会計基準（K-GAAP）では、340億ウォンの営業利益を計上するまでに躍進

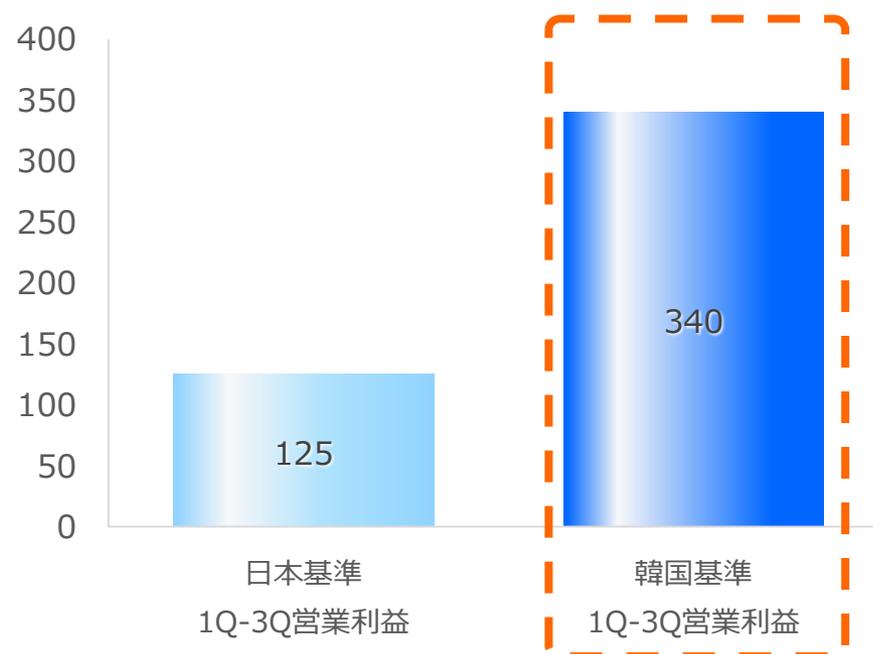
韓国金融事業

単位：億ウォン

営業収益



営業利益



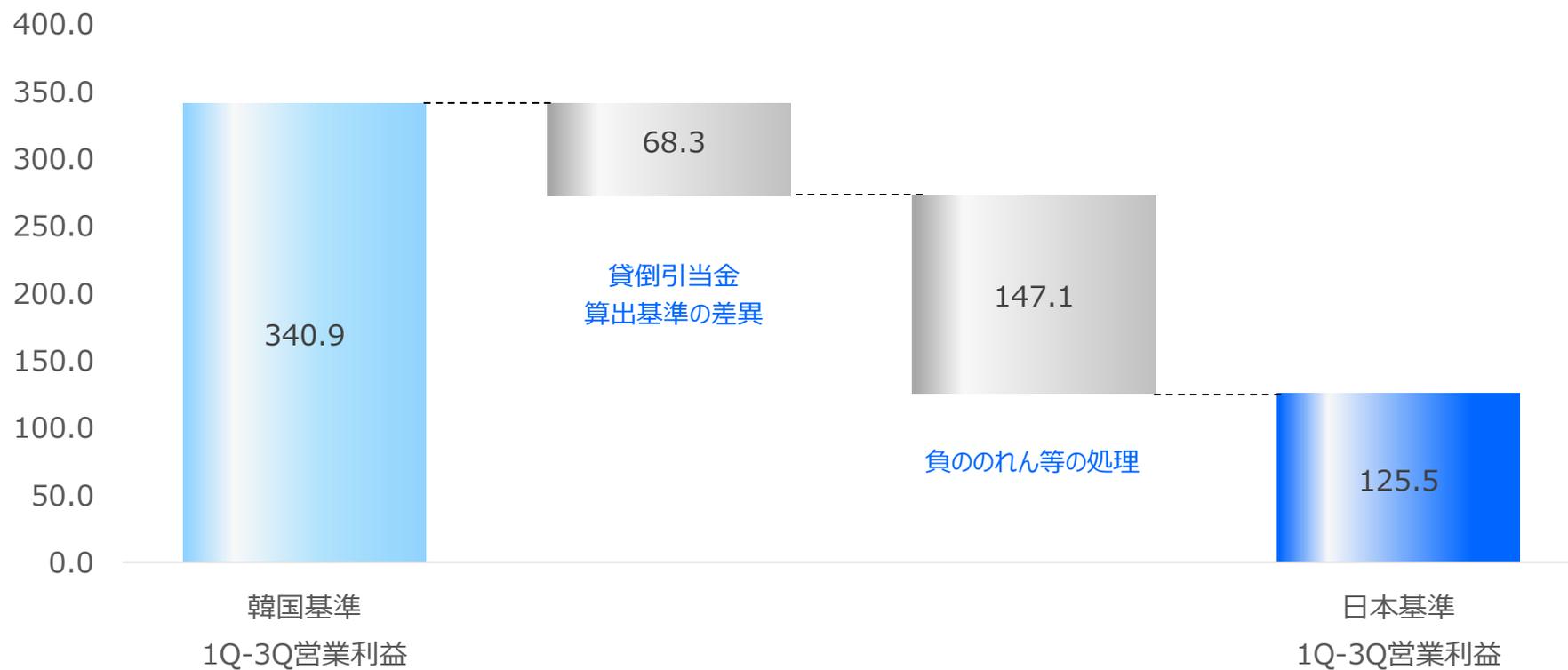
参考レート：1ウォン=0.0968円

※韓国4社 = J T 親愛貯蓄銀行 J T 貯蓄銀行
J T キャピタル T A 資産管理

- ▶ 貸倒関連費用を算出する際の基準に差異があること、および連結に取り込む際の負ののれんの消化分が発生するため韓国基準と日本基準に差異が発生

韓国基準と日本基準の違い

単位：億ウォン

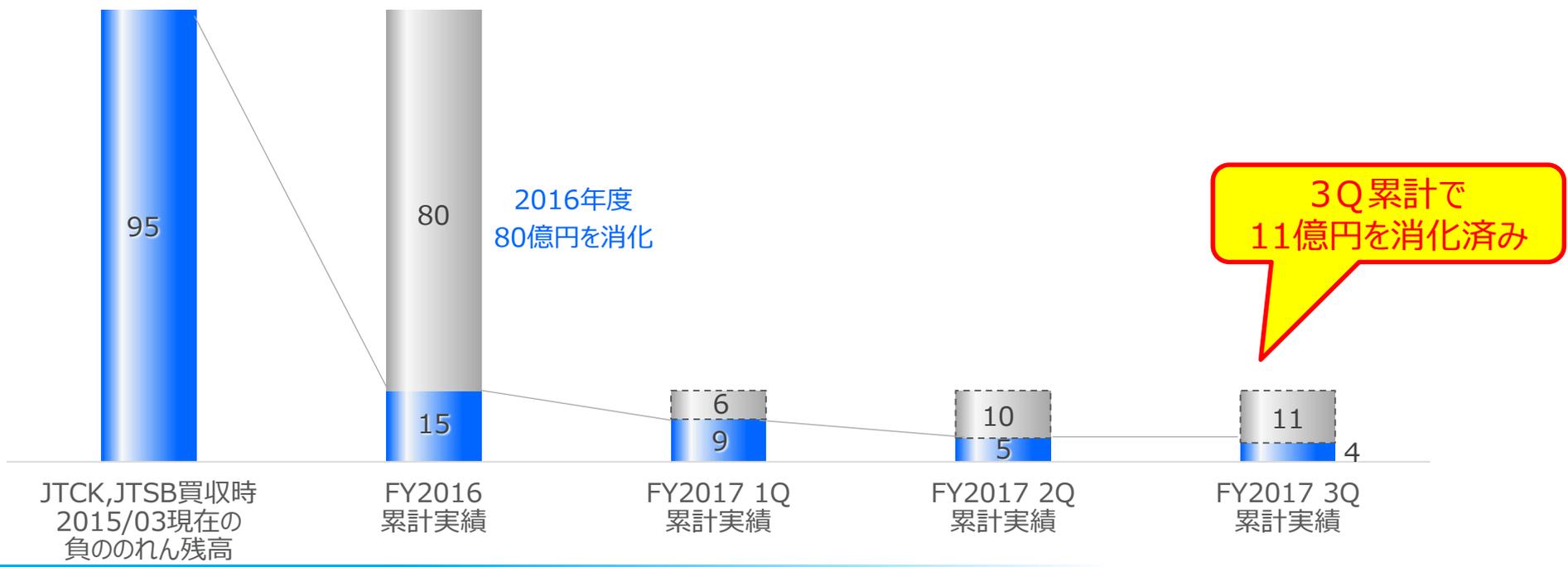


- 2015年3月期に計上した負ののれんが連結営業利益に影響
- 2016年12月時点の未消化残高は約4億円

J-GAAP

負ののれんが営業利益に与える影響

単位：億円

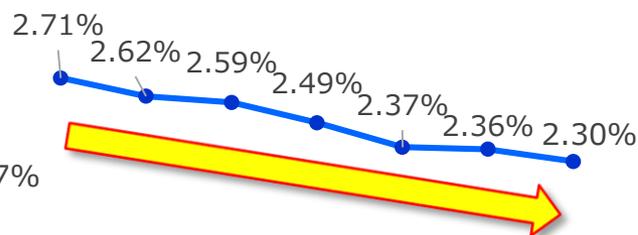


- 平均貸出金利は、不動産担保ローンや大企業向け融資の増加、低金利商品の発売など、新たな優良顧客層の獲得を目的とした戦略的な低下
- 平均預金金利は順調に低下

平均貸出金利

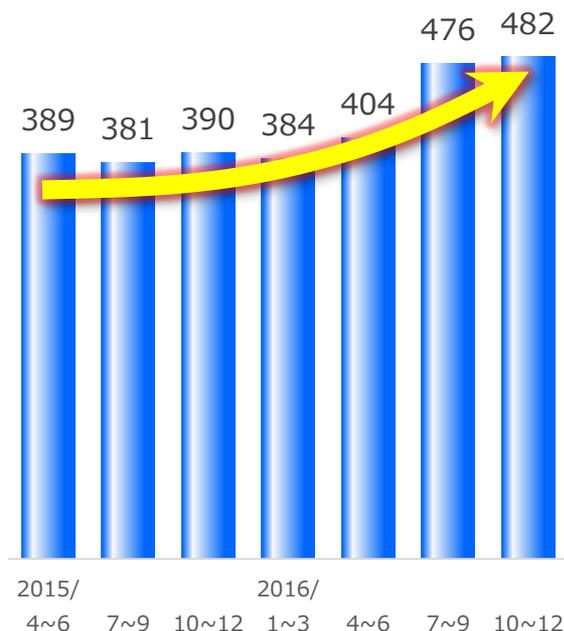


平均預金金利



純金利収入

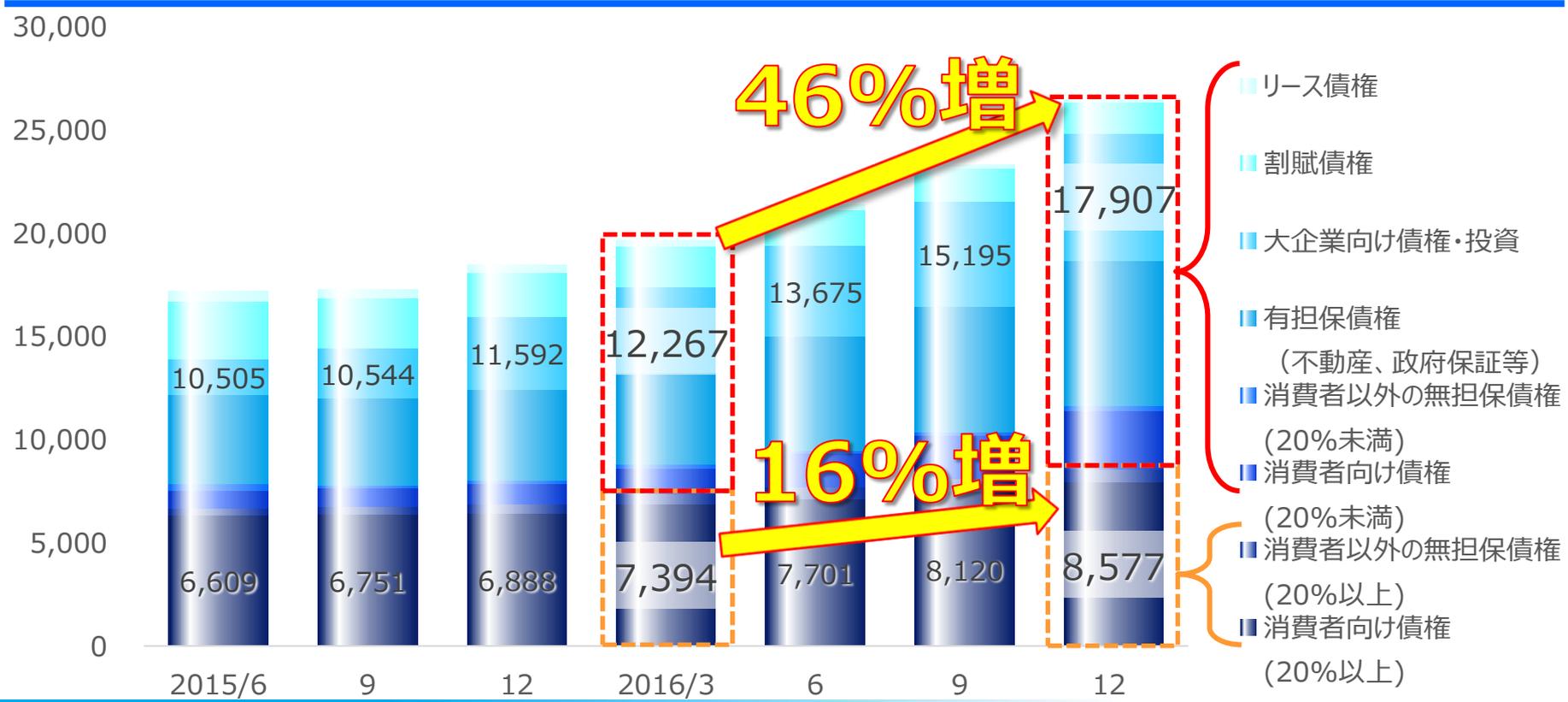
単位：億ウォン



- 韓国経済の減速を考慮し、より優良な中・低金利帯の債権を積み上げ
- 貯蓄銀行の社会的信用度も高まり、大企業向け融資や優良な投資案件が増加
- 消費者向け債権も順調に伸長

債権ポートフォリオ (金額ベース)

単位：億ウォン

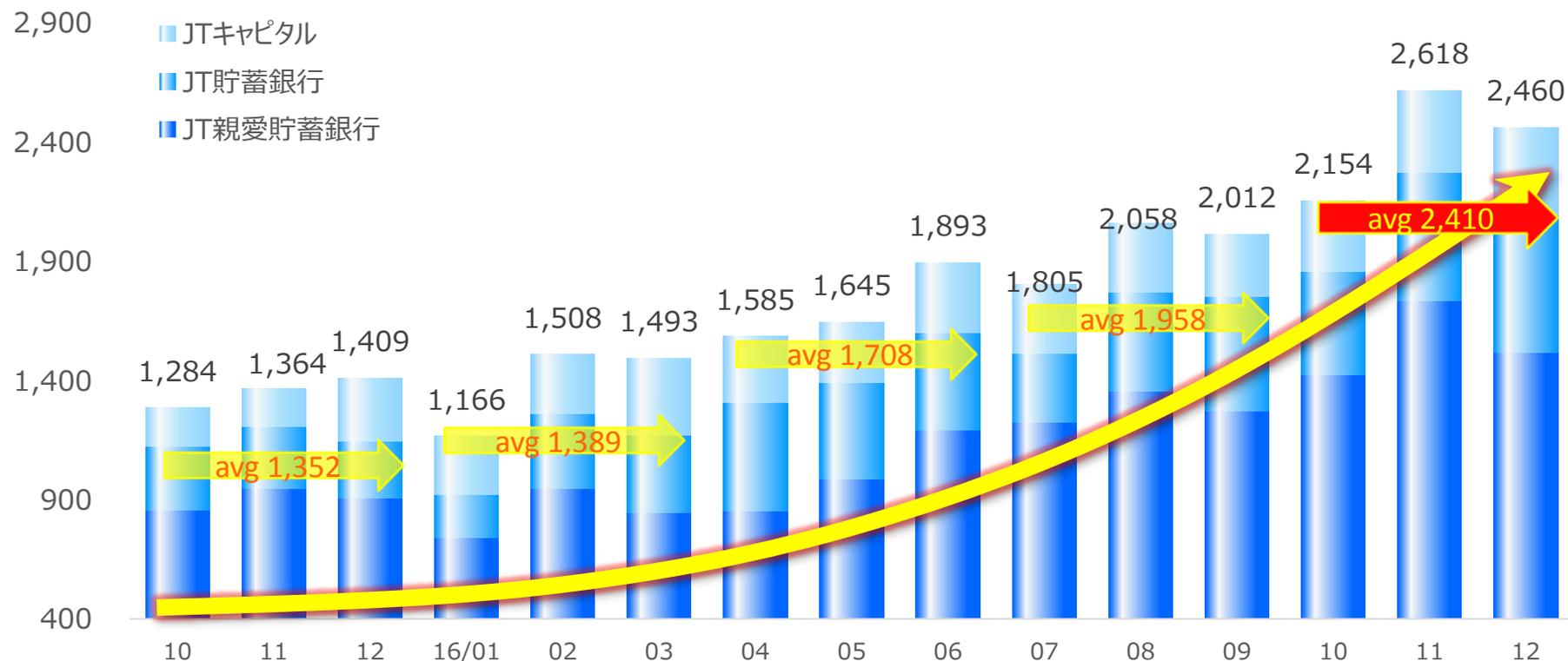


参考レート：1ウォン=0.0968円

- ▶ 月間新規貸出金額は過去最高額を更新中（3ヶ月平均 = 2,410億ウォン）
- ▶ 利益水準とのバランスを考慮し、戦略的な残高の積み上げを目指す
- ▶ 経済が減速傾向にある中、優良債権を積み上げるべく与信をコントロール

月間新規貸出金額

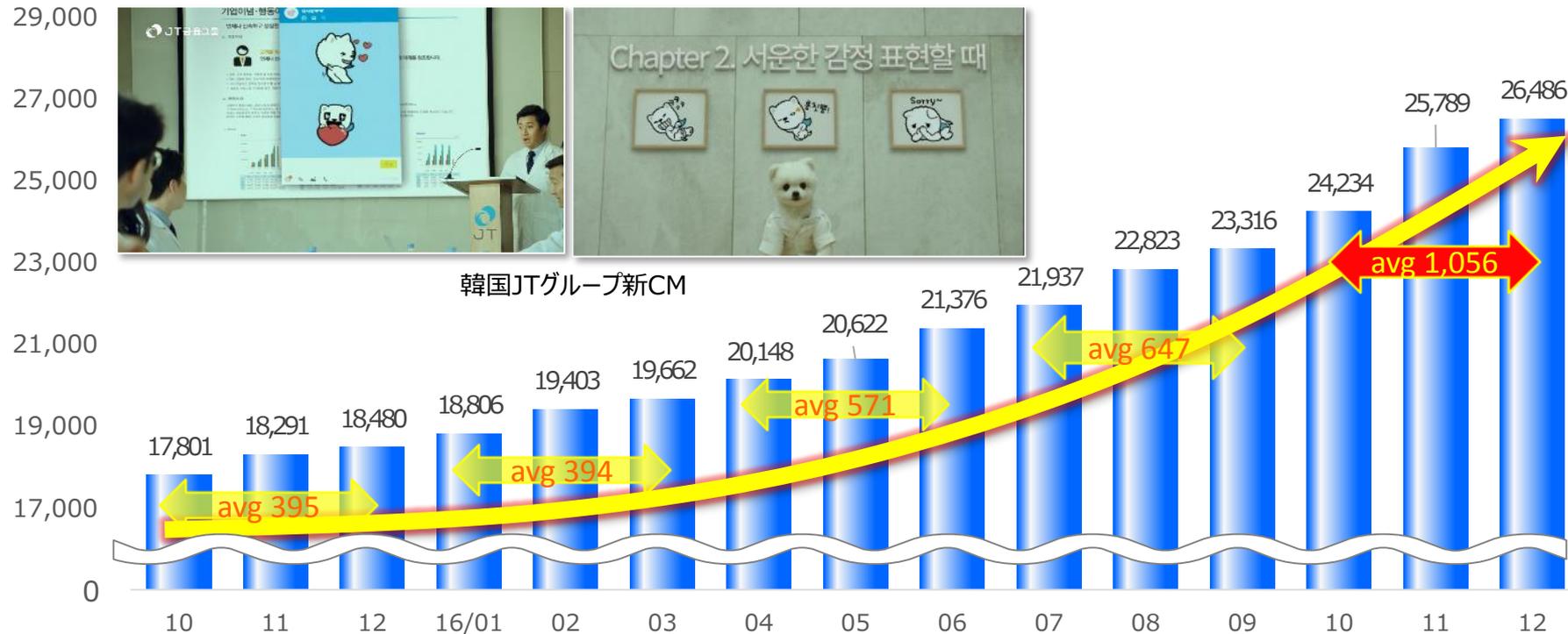
単位：億ウォン



▶ マーケティング戦略が奏功し、3Qの月平均純増額は約1,056億ウォン

貸出資産残高推移

単位：億ウォン

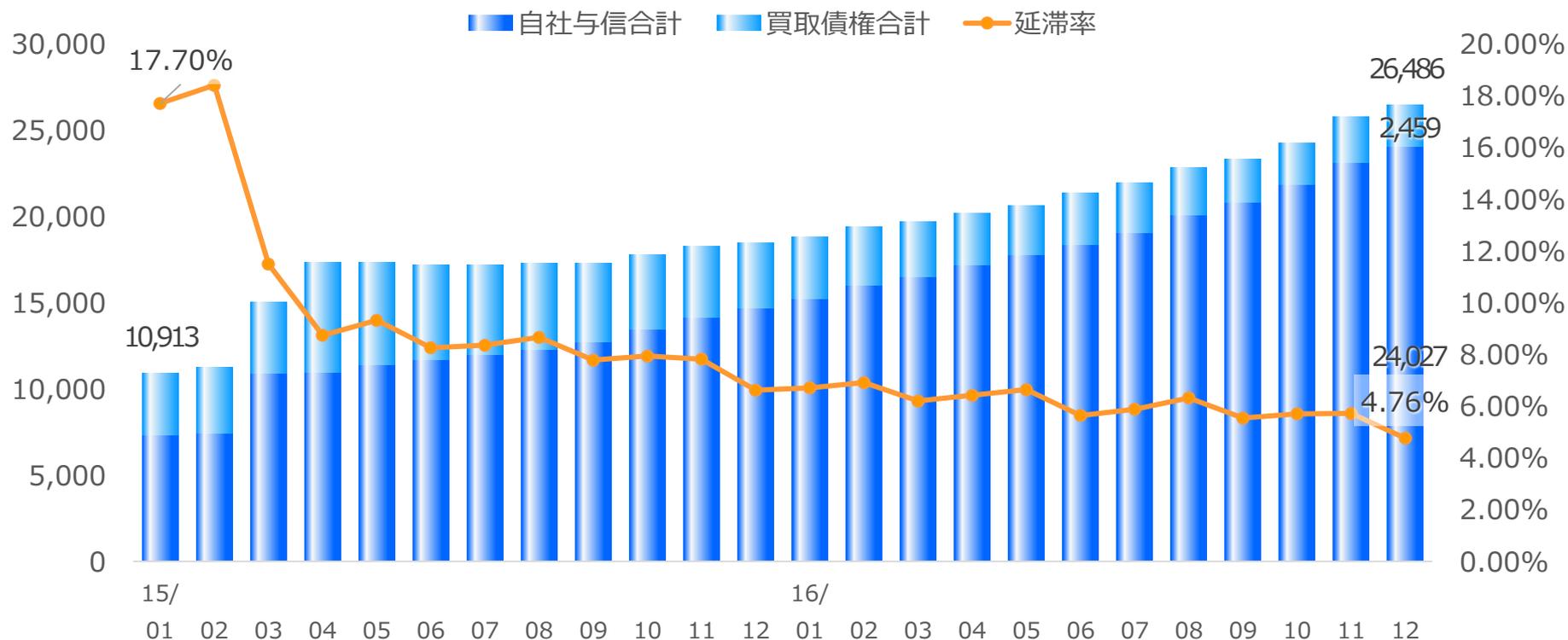


参考レート：1ウォン=0.0968円
 グラフ内矢印に記載の数値は、3ヶ月の純増額の平均値

- 自社与信の優良な債権が更に増加
- 延滞率は低位で推移
- 収益基盤は更に強固になる

貯蓄銀行/キャピタルの貸出資産残高および延滞率推移

単位：億ウォン



参考レート：1ウォン=0.0968円
 ※延滞率=30日以上の延滞債権

➤ 各社共に利益を計上できる体質となる

韓国金融事業 各社サマリー

2016年1月-12月実績

	JT親愛貯蓄銀行	JT貯蓄銀行	JTキャピタル	3社単純合計
営業収益	1,960億ウォン	544億ウォン	645億ウォン	3,149億ウォン
営業利益	257億ウォン	120億ウォン	134億ウォン	511億ウォン
税前利益	258億ウォン	121億ウォン	134億ウォン	513億ウォン
当期純利益	251億ウォン	93億ウォン	105億ウォン	449億ウォン
ROA	1.45%	1.59%	2.43%	1.64%
ROE	18.69%	11.28%	7.54%	12.61%
ROI	14.23%	17.86%	12.05%	14.23%

- 2年連続、全貯蓄銀行中『ナンバーワン』の称号
- 品質・サービス満足度、価格対比満足度、期待に対する満足度、リピート希望、他人への推薦希望など満足度部門5つの項目で1位を獲得

2017大韓民国ファーストブランド大賞

2017大韓民国ファーストブランド大賞とは？

- ・韓国消費者フォーラムが主催
- ・韓国国内居住の消費者約65万人を対象にモニタリング



- 2015年12月「信賴經營部門大賞」を受賞
- 2016年12月「經營革新賞」を受賞

2016アジュ経済金融証券大賞

主催：グローバル総合経済誌アジュ経済

受賞の理由

- 中金利商品であるワンダフルワウローンを発売
- メンバーシップ制度の開発
- ワンワンコンテストなどわんちゃんを起用したマーケティング



アジュ経済対象授賞式

- 市場環境等に合わせ柔軟な対応を迅速に取ることで、利益の最大化を図る

今後の戦略

質	BIS（自己資本）比率を考慮し、貸出残高とポートフォリオをコントロール
量	利益とのバランスを考慮し、貸出残高の積み上げスピードをコントロール
リターン	投資リターンを最大限に意識した経営

4. その他

- 2016年10月にJトラスト公式Facebookを開始
- グループの活動や現地情報を発信し、一般の方々の当社に対する興味を喚起し、IR/PRにつなげる
- 企業情報のほか、エンターテインメント性のある情報等、話題性の高いFacebookを目指す

Facebook

韓国で「2016ファーストブランド大賞」を受賞した時の日本人マネジメントによるインタビュー



- ◆ Jトラストが事業活動している国々の活動状況、関連ニュース、オフショット等を投稿

詳しくは下記のQRコードからご覧ください



facebook

➤ 配当に加え、当期末は設立40周年記念株主優待を実施

株主優待について

貯めて使える。便利でお得なポイントで楽しさアップ!
2,000円分のポイントプレゼント! | ログアウト | 楽天市場へ
ポイントが貯まる楽天ツールバー | 会員ランクについて | my Rakuten | ヘルプ

楽天 PointClub

PointClub

R
POINT

楽天スーパーポイントをGET!
受け取ったポイントで今すぐお買い物をしよう!

step2 ギフトコードを入力して送信

16桁のギフトコードを入力して
送信ボタンを押すだけ!

ギフトコードとは?
ポイントを獲得するための16桁のコード(半角数字)です。ギフトコードを正しく入力して、「送信」ボタンをクリックしてください。

ギフトコード:

GET

お買い物に使える、お得な楽しい
楽天スーパーポイントがもらえます!

step1 ログインする

step2 ギフトコードを入力して送信

step3 楽天スーパーポイント受け取り完了

- ◆ 2017年3月末時点の株主様*のうち、300株以上保有の株主様が対象
- ◆ 株主様1名につき、楽天ポイントギフトコード5,000ポイント分を贈呈
- ◆ 2017年6月下旬に発送予定

*2017年3月末現在の株主名簿に記載または記録されている株主様

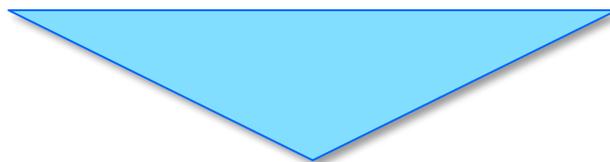
➤ 営業利益の通期計画42億円達成まであと9億円

営業利益通期計画と第3四半期実績

単位：億円

営業利益	通期計画	1Q-3Q FY2017
国内金融事業	42	35
韓国金融事業	31	11
東南アジア金融事業	-65	-65
投資事業	55	77
非金融事業	4	-0
本社費用/その他	-25	-25
連結営業利益	42	33

- 業績は当第3四半期決算よりV字回復、来期以降の持続的な成長の基盤整備を進める
- 今期末を目途に東南アジア金融事業の期ずれ解消を目指す
- 来期中を目途にIFRS適用に向け着実に準備を進める
- 東証1部指定に向け準備中



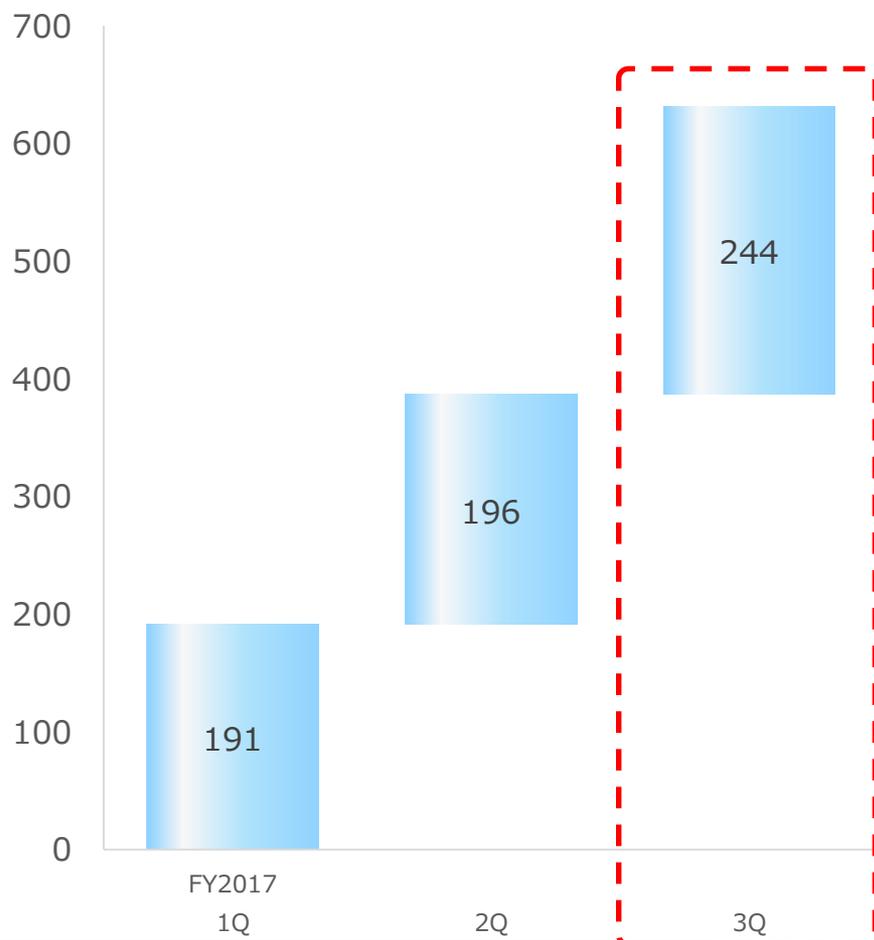
積極的なIRを実施し、
企業価値の向上を目指す

APPENDIX

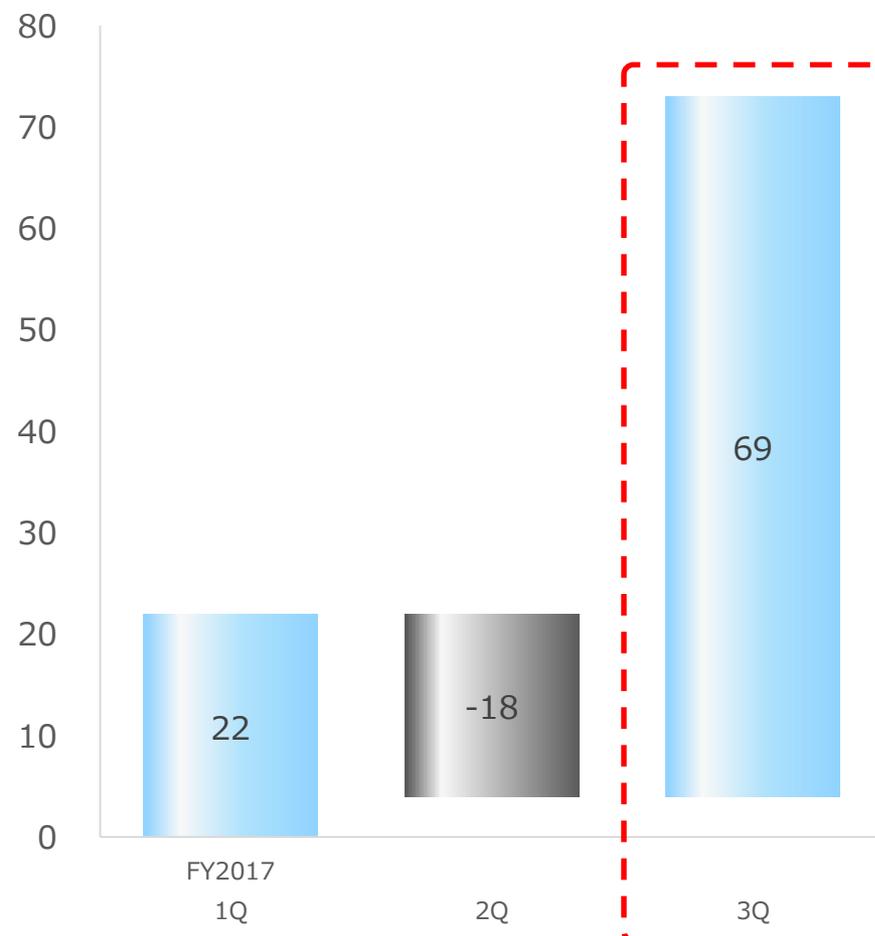
IFRS（未監査）

単位：億円

営業収益



営業利益



IFRS（未監査）

	1Q-3Q FY2016	1Q-3Q FY2017	差異
営業収益	573億円	631億円	58億円
営業利益	-6億円	73億円	79億円
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	-6億円	57億円	63億円

IFRS（未監査）

	1Q-3Q FY2016	1Q-3Q FY2017	差異
国内金融事業	77億円	68億円	-9億円
韓国金融事業	201億円	202億円	+1億円
東南アジア金融事業	88億円	103億円	+15億円
投資事業	26億円	77億円	+51億円
非金融事業	167億円	161億円	-6億円
その他	12億円	17億円	+5億円
合計	573億円	631億円	+58億円

※非金融事業：不動産事業および総合エンターテインメント事業

第3四半期決算概要/セグメント営業利益（前年同期比）

IFRS（未監査）

	1Q-3Q FY2016	1Q-3Q FY2017	差異
国内金融事業	33億円	39億円	+6億円
韓国金融事業	-3億円	19億円	+22億円
東南アジア金融事業	-40億円	-36億円	+4億円
投資事業	27億円	77億円	+50億円
非金融事業	5億円	2億円	-3億円
その他	-28億円	-28億円	±0億円
合計	-6億円	73億円	+79億円

※非金融事業：不動産事業および総合エンターテインメント事業

※その他：本社・システム・連結調整等

■ 国内金融事業

単位：億円

日本保証		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
債務保証残高	2016年度	367	374	384	392	398	407	424	435	453	466	502	533
	2017年度	548	558	569	597	624	649	683	712	763	774		
うち、アパートローン	2016年度	6	7	14	20	21	28	38	48	63	77	92	121
	2017年度	145	156	186	212	240	264	287	317	373	386		

■ 韓国金融事業

単位：億ウォン

韓国金融事業		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
合計	2016年度	17,376	17,340	17,175	17,212	17,267	17,296	17,801	18,291	18,480	18,806	19,403	19,662	
	2017年度	20,148	20,622	21,376	21,936	22,823	23,315	24,234	25,789	26,485	27,169			
銀行業における 貸出金残高	JT親愛貯蓄銀行	2016年度	11,027	10,814	10,674	10,762	10,723	10,705	11,049	11,434	11,524	11,715	12,085	12,143
		2017年度	12,265	12,494	11,815	13,215	13,806	14,232	14,919	16,215	16,249	16,678		
	JT貯蓄銀行	2016年度	2,310	2,426 ^{*1}	2,588	2,595	2,696	2,796	2,956	3,069	3,138	3,169	3,278	3,399
		2017年度	3,681	3,868 ^{*1}	5,243	5,626	5,754	5,725	5,783	5,846	6,311	6,437		
合計	2016年度	13,338	13,241	13,262	13,357	13,420	13,502	14,006	14,504	14,662	14,884	15,364	15,542	
	2017年度	15,946	16,362	17,059	18,842	19,560	19,957	20,703	22,061	22,560	23,115			

【特記事項】※1 2016年6月に、韓国グループ間の資本効率の最適化のため、JT親愛貯蓄銀行からJT貯蓄銀行へ1,308億ウォンの債権譲渡を行っております。

単位：億ウォン

営業貸付金残高		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
JTキャピタル	2016年度	4,038	4,099	3,912	3,854	3,847	3,793	3,794	3,787	3,818	3,922	4,039	4,119
	2017年度	4,202	4,259	4,317	3,094	3,262	3,358	3,531	3,728	3,925	4,053		

【特記事項】※2 2016年7月に、2016年9月に改正施行される与信専門金融業法の個人信用貸付比率の規定を遵守するため、系列貯蓄銀行へ個人信用貸付債権1,491億ウォンの債権譲渡を行っております。

■ 東南アジア金融事業

単位：億ルピア

Jトラス銀行トインドネシア (BJI)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
銀行業における貸出金残高※	2016年度	80,735	83,157	82,922	84,081	86,344	87,851	83,664	86,477	93,672	93,186	97,457	99,924
	2017年度	101,798	105,232	107,323	104,318	106,729	105,174	106,033	107,092	111,843	109,295		

【特記事項】※決算月のずれを修正しているため、決算補足説明資料とは整合しません。

例) 決算補足説明資料 2016年3月のデータ ⇒ 2015年12月のBSから集計

単位：億ルピア

PT Group Lease Finance Indonesia (GLFI)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
GLFI残高	2016年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2017年度	-	-	-	-	-	102	179	223	328	462		
BJI融資残高 (GLFI関連)	2016年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2017年度	-	-	-	-	-	25	91	132	232	359		

